第Ⅲ部 寒 践 編

第Ⅲ部 実践編 もくじ

愛知県立惟信高等学校の取組

1	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	23
2	研究の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	24
3	研究の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	24
4	研究の実際・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	28
5	実践のまとめと考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	36
6	成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	37
7	おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	38
	資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	41
	愛知県立一宮南高等学校の取組	
1	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	87
2	研究の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	87
3	研究の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	87
4	研究の実際・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	88
5	実践のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	97
6	おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	97

愛知県立惟信高等学校の取組

ーパフォーマンステスト, ルーブリック, CAN-DOリストー

愛知県立惟信高等学校 教諭 宮田 剛 教諭 内藤 寛文 教諭 野々山淳子

1 はじめに

(1) 英語の学習指導と評価

今年度より高等学校外国語(英語)科において新学習指導要領が学年進行で実施されている。新学習指導要領に示されている外国語(英語)科の目標は、コミュニケーション能力の育成である。そのためには、授業の中にペア・ワークやグループ・ワークを取り入れて、生徒が実際に英語を使用する場面を充実させる必要がある。

指導と評価の一体化の考え方から、授業で身に付けた力を適切に評価することが求められる。さらにコミュニケーション能力の適切な評価が生徒の動機づけや教員の指導改善につながると考えられる。知識を問う形式の筆記テストのみではなく「話すこと」「書くこと」という「外国語表現の能力」を適切に評価する方法を考えていく必要がある。

(2) 本校の概要と生徒の実態

本校は、愛知県名古屋市港区に位置し、今年度で開校89年目を迎えた伝統校である。第1学年9学級、第2学年9学級、第3学年8学級の合計26学級の編成である。文化祭をはじめとした学校行事や部活動が盛んである。卒業後の進路については、約7割の生徒が大学・短大への進学、約2割が専門学校への進学、1割弱が就職となっている。

本校の生徒の実態については、元気で明るく人懐っこい生徒が多く、活発なコミュニケーション活動を実施する下地は備えている。ただし、英語の学力は決して高いとは言えず、学習意欲が十分でない生徒も多いため、綿密な計画に基づいて適切に指導できなければ、ペア・ワークやグループ・ワーク等の言語活動がうまく機能しないという懸念もある。また、対人関係で不安を抱えている生徒も少なからずおり、ペア・ワークやグループ・ワークを行う際には配慮を要する。

また、上位層と下位層の学力差が大きいということも特徴の一つである。国公立大学・難関私立大学への進学を希望する生徒がいる一方で、基礎学力が十分に定着していない生徒もいて、生徒の学習意欲や学力が著しく二極化している。そのため、学習指導におけるレベル設定が非常に困難であり、大きな課題となっている。

なお、本校の教育課程表、その他の事項については資料1・資料2のとおりである。

(3) 本校でのこれまでの取組

いかにしてコミュニケーション能力を育成し、評価していくべきか。この課題を解決するために、昨年度、第1学年のオーラル・コミュニケーション I で、各学期に1回スピーキングテストを実施し、ルーブリックを用いて評価するという試みを始めた。スピーキングテストという評価場面を設定することで、生徒が授業内の言語活動に取り組む動機づけをすることができる。また、ルーブリックを用いて観点別評価をすることで、生徒のコミュニケーション能力を客観的に測ることが可能となり、さまざまな形で、その後の学習指導に生かしていくことができると考えた。

新たな試みということで当初は教員の側にも戸惑いはあった。それでも何度も議論し、試行錯誤を重ねながら、無事に年3回のスピーキングテストを終えることができた。スピーキングテストの試みを総括する中で、「スピーキングテストは、生徒が授業内の言語活動に取り組む非常によい機会となった」「普段の授業においても、自然な形でコミュニケーション活動を行うことができるようになった」というように、一定の成果を確認することができた。このようにスピーキングテストの成果を検証した上で、次年度も継続していくことにした。

昨年度から継続するスピーキングテストに加えて、今年度では新たにライティングテストを導入することにした。これまで和文英訳に偏りがちであった「書くこと」の活動を、より主体的で創造的なものにして、自己表現ができる生徒を育成したいという願いからである。

2 研究の目的

新学習指導要領で示されているコミュニケーション能力の育成を図るため、外国語(英語)科の学習活動について、学習到達目標を明確にしたパフォーマンス課題及びルーブリックを作成し、評価を行う。この評価手法の妥当性・信頼性を高め、生徒の資質・能力の向上を図る。

3 研究の概要

(1) 今年度の研究内容

ア 研究組織

英語科教員を中心に校内委員会を組織し週1回を基本として会議を開催した。本研究委託事業の計画・運営について審議するとともに、CAN-DOリスト、ルーブリック等、英語教育に関する研究協議及び情報交換を行った。明治大学の尾関直子教授からは研究全般に関する指導を受けた。

イ スピーキングテスト

第1学年で各学期に1回、コミュニケーション英語Iの授業において、「外国語表現の能力」のうち「話すこと」の評価を行うため、面接によるスピーキングテストを実施した。1回のテストにつき、2時間分の授業時間を充てた。二つの教室を使用し、一方の教室をテスト会場とし、他方の教室を生徒の控え室として使用した。控え室となる教室では、別の教員が個別学習の時間として指導した。

評価の観点を、スピーチの内容、声の大きさ、アイコンタクト、質問への応答等として、ルーブリックを用いて評価を行った。各学期のスピーキングテストはそれぞれ 20 点満点の試験として扱い、成績に反映させた。

評価の再検討及びポートフォリオを想定し、テスト中のやりとりは、すべて I C レコーダーで記録 し、保存している。

なお、第3回のスピーキングテストでは、ALTの協力を得て実施・検証することとした。

ウ ライティングテスト

第1学年で各学期に1回,英語表現Iの授業において,「書くこと」の評価を行うため,筆記によるライティングテストを実施した。50分の授業時間のうち20分の時間を充てた。

評価の観点を, 語数, 内容, 構成, 文法等として, ルーブリックを用いて評価を行った。各学期の ライティングテストはそれぞれ 20 点満点の試験として扱い, 成績に反映させた。

事後の検証及びポートフォリオを想定し、生徒の解答用紙はすべてコピーをとり、保存している。 なお、第3回のライティングテストでは、ALTの協力を得て実施・検証することとした。

エ ルーブリック

上記のパフォーマンステストを実施する際,ルーブリックを用いた評価を行った。評価の妥当性・ 信頼性を高め、学習指導の中でもルーブリックを効果的に活用することを研究した。

オ CAN-DOリスト(資料3)

学習到達目標・学習指導・評価の一体化を図るため、本校独自のCAN-DOリスト作成に取り組んだ。CAN-DOリストの作成に当たっては、主に学習指導要領とCEFR-Jを参考にした。

力 訪問調査

今回の研究を推進する際の参考とするため、県全体としてCAN-DOリストに基づく指導と評価の 改善に取り組んでいる山梨県の県立甲府昭和高等学校と県立韮崎高等学校、ディベートを導入した指 導で先進的な取組をしている茨城県の県立太田第一高等学校と県立土浦第三高等学校をそれぞれ訪問 した。

(2) 研究の経過及び予定

		実施内容等					
第1年次	5月27日(月)	第1回校内委員会					
(平成25年度)		研究の趣旨の確認、役割分担、今後の事業計画					
	6月6日(木) 第2回校内委員会						
		第1回スピーキングテスト・ライティングテスト,					
		CAN-DOリスト,ルーブリック,今後の事業計画					
	6月10日(月)	第1回スピーキングテスト実施・第1回ライティングテスト実施					
	~14 日(金)						
	6月13日(木)	第3回校内委員会					
		第1回スピーキングテスト・ライティングテスト取組状況,					
		今後の事業計画、CAN-DOリスト、ルーブリック、					
		惟信版CAN-DOリスト…各委員がそれぞれのCAN-DOリスト					
		の案(1回目)を提出					
	6月20日(木)	第 4 回校内委員会					
		第1回スピーキングテスト・ライティングテストの反省,					
		CAN-DOリスト,ルーブリック、今後の事業計画,					
		英語科教育目標アンケートの実施・検討					
	7月4日(木)	第 5 回校内委員会					
		今後の事業計画、CAN-DOリスト、ルーブリック、GTEC					
	7月11日(木)	第6回校内委員会					
		第2回スピーキングテスト・ライティングテスト,					
		今後の事業計画、CAN-DOリスト、ルーブリック					
	7月29日(月)	第7回校内委員会					
		今後の事業計画、CAN-DOリスト、ルーブリック					
	9月5日(木)	第8回校内委員会					
		第2回スピーキングテスト・ライティングテスト,					
		CAN-DOリスト, ルーブリック, GTEC					

9月26日(木)第9回校内委員会

第2回スピーキングテスト・ライティングテスト,訪問調査調整, 今後の事業計画,CAN-DOリスト,ルーブリック, 惟信版CAN-DOリスト…各委員がそれぞれのCAN-DOリスト

の案(2回目)を提出

10月3日(木) 第10回校内委員会

今後の事業計画、CAN-DOリスト、ルーブリック、

惟信版CAN-DOリスト…各委員がそれぞれのCAN-DOリストの案(2回目)を提出

ELP (ヨーロッパ言語ポートフォリオ)

10月10日(木) 第11回校内委員会

第2回ライティングテスト、CAN-DOUスト、ルーブリック、「校内委員会 経過報告<草稿>」

10月18日(金) 第12回校内委員会

研究の趣旨、研究の進捗状況・方向性

10月28日(月) 第2回ライティングテスト

~11月1日(金)

10月29日(火)第13回校内委員会

今後の事業計画, 第2回スピーキングテスト・ライティングテスト

11 月 7 日(木) 第 14 回校内委員会

今後の事業計画、惟信版CAN-DOリスト・学校目標、 第2回スピーキングテスト

11月14日(木)第15回校内委員会

今後の事業計画, CAN-DOリスト, ルーブリック, 企画書, 第2回スピーキングテスト・ライティングテストの状況, 物品購入 検討, 訪問調査調整, 今後の役割の確認, 購入希望図書検討

11月18日(月) 第2回スピーキングテスト実施

~22 日 (金)

11月21日(木)第16回校内委員会

研究発表会の流れ,第1回評価手法検討会議での質問事項,第3回スピーキングテスト・ライティングテスト実施案,物品購入の審議,第2学年の取組報告

11月28日(木)第17回校内委員会

物品購入検討,訪問調査調整,第1回評価手法検討会議の準備,第3回パフォーマンステストにおけるALTの活用, CAN-DOリスト,ルーブリック

12月9日(月) 第1回評価手法検討会議

[研究概要について、多様な評価手法についての講義] 分科会 [CAN-DOリストについての講義(尾関教授)]

12月9日(月) 第18回校内委員会 研究の進捗状況, 本校の取組, 尾関教授による指導助言 12月12日(木) 第19回校内委員会 第1回評価手法検討会議/第18回校内委員会の報告, 購入希望物品一覧, 訪問調查調整, 第3回スピーキングテスト・ライティングテスト実施案 12月24日(火)第20回校内委員会 研究成果報告書の様式, 1月の事業計画の確認, 予算案検討, 第3回スピーキングテスト・ライティングテスト実施案, 惟信版CAN-DOリスト原案 1月9日(木) 第21回校内委員会 第3回スピーキングテスト・ライティングテスト, 訪問調査に向け て、研究成果報告書(スピーキングテスト・ライティングテストの ページの草稿)の検討、惟信版CAN-DOリスト完成、今後の事 業計画 1月16日(木) 茨城県立太田第一高等学校訪問 茨城県立土浦第三高等学校訪問 1月16日(木)山梨県立甲府昭和高等学校訪問 1月17日(金) 山梨県立韮崎高等学校訪問 1月22日(水)第22回校内委員会 1月23日(木)校内研究会について,研究成果報告書の検討,訪問 調査の報告、第3回スピーキングテスト・ライティングテスト 1月23日(木)第23回校内委員会 尾関教授による本校訪問 授業参観、尾関教授による指導(授業、スピーキングテスト、ライ ティングテスト,惟信版CAN-DOリストについて) 1月27日(月) 第3回スピーキングテスト ~31 日(金) 1月30日(木) 第2回評価手法検討会議 2月3日(月) 第3回ライティングテスト ~7日(金) 2月12日(水) 研究発表会 2月26日(水) 明治大学訪問(尾関教授による指導助言) 3月 研究成果報告書の発刊

4 研究の実際

(1) スピーキングテスト

ア目的

前年度オーラル・コミュニケーション I の授業において、各学期に1回、年3回のスピーキングテストを実施した。生徒の取組や反応もよく、授業の活性化にもつながったため、今年度も第1学年のコミュニケーション英語 I において、スピーキングテストを実施することにした。

スピーキングテストを行う上での目的は、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するため、日々の授業で身に付けたコミュニケーション能力(スピーキング能力)を確認し、活発な言語活動の一助とすることである。

本校の生徒は英語に苦手意識をもつ生徒が多い。これまでは文法指導を中心とした授業を展開してきたが、3年生になっても、教員が期待するような学力がついていないのが現状である。新学習指導要領が実施された今年度において、教科書の難易度を下げ、よりコミュニケーション重視の授業を展開し、筆記テストに依存している評価方法から離れ、生徒の英語能力を多面的に評価していくことにした。スピーキングテストを実施することにより、授業におけるコミュニケーション活動を充実させ、英語に対する苦手意識を少しでも払拭したい。「英語は楽しい」と生徒に実感させたいというのが今年度の第1学年の英語科における目標である。

イ 第1回スピーキングテスト 一インタビュー形式―(資料4 第1回実施要項参照)

① 第1回スピーキングテストの概要

第1回のスピーキングテストの内容は、それまで授業で学習した内容を質問事項に入れることにより、生徒が取り組みやすくなるようにした。また「Tell me about your family.」などのオープンクエスチョンを盛り込むことによって、生徒が自ら表現する機会を与え、オリジナリティを生かせるようにした。

事前に質問事項を具体的に提示したこともあり、生徒の取組状況は非常によく、ほとんどの生徒が テストに向けてしっかりと準備をしていた。20点満点における学年全体の平均点は17.4点であった。

② 第1回スピーキングテストの反省・課題

今回のテストを実施して明らかになったことは、ルーブリック作成上の問題である。今回のルーブリックは、一つの評価基準に、質問の理解度、文法、伝達という三つの観点が盛り込まれていた。そのため、教員はその場で瞬時に評価できないことがあった。次回以降のテストでは一つの評価基準に多くの観点を入れるのではなく、それぞれの項目を独立させてルーブリックを作る必要性を感じた。

また、事前に教員間でルーブリックの検討を行ったが、実際にテストを実施してから出てくる疑問が多く、迷いながら評価をする教員もおり、もっと綿密な事前打ち合わせが必要であると感じた。スピーキングテストにおける評価の信頼性を確立させる困難さを痛感した。

さらに、今回のテスト結果の返却は点数のみとしたため、どのように評価されたのか生徒に伝わらないままであった。

ウ 第2回スピーキングテスト ―やりとりの形式―(資料5 第2回実施要項参照)

① 第2回スピーキングテストの概要

第2回では生徒が実際に英語を使用する場面をイメージできるような題材を採用し、生徒が店員役となり客(教員)とのやりとりを想定したテストを実施した。教科書に載っているアクティビティを基にスピーキングテスト用に手直しを加えた。より具体的に状況をイメージできるように、かばんや帽子などの絵が描いてあるカードを用意し、生徒にはそれを実際に手にとって客に説明するように指

示をした。

また、ルーブリックについては第1回の反省を生かし、評価項目ごとで評価基準を設定するようにした結果、評価がしやすくなった。第1回と違い、やりとりを評価するので、評価項目に目的達成や声の大きさ、non-verbal communication を取り入れた。non-verbal communication に関しては、テスト前の1時間を使って練習をしたので、ほとんどの生徒がアイコンタクトを意識したり、カードを手にとって客に分かりやすく示したりすることができていた。英語を話す際、言語そのもの以外の部分がコミュニケーションにおいて大きな役割を果たすということを生徒に意識させることができた。また、今回の題材に関しては、店員と客のやりとりを成立させることが一番重要であるとして、目的達成の評価項目の得点の割合を大きくした。

第1回の反省を踏まえ、今回は事前に評価表を生徒に提示した。これにより、何をがんばればいいのか、何を目標にすればいいのかが具体的に分かり、生徒の動機づけにつながった。

結果の返却については、ルーブリックを記した評価表自体を返却することとし、生徒自身が何ができて、何ができないのかを把握することができるようにした。

テストの平均点は前回より下がり、13.4点であった。第1回の一問一答形式ではなく、やりとり全体の流れを頭の中に入れなければいけないので、準備不足の生徒の成績が振るわなかった。

② 第2回スピーキングテストの反省・課題

第2回のテストを経て話題に上がったことは、今回の方法では生徒の即興的なスピーキング能力を 測ることができないことである。第3回では、指導方法を工夫することにより実際の使用場面に近づ けたテストを実施したい。

エ 第3回スピーキングテスト —Show and Tell 形式—(資料6 第3回実施要項参照)

① 第3回スピーキングテストの概要

第3回ではALTを交えて Show and Tell を実施する予定である。テストの構成は、前半部分では ALTに自分の大切なものを紹介し、後半部分ではそれに関してALTがいくつかの質問をする形式 にした。今回は決まったやりとりの形式があるわけではなく、自分自身で英文を作るのでオリジナリティが出てくるのではないかと期待している。また、その場でALTが質問をするため、即興的なスピーキング能力が測れるのではないかと考えている。

また,今回も第2回と同様にテスト前の1時間を準備の時間とする。その際,小グループに分かれ, リハーサルとして他の生徒の発表を聞き,相互評価させる。その結果は成績には加味しないが,他の 生徒の発表を聞いて評価し合うことで刺激になるのではないかと考えている。

第2回と同様、文法には焦点を当てず、内容を重視してルーブリックを作成した。今回はALTにも評価をしてもらい、評価の視点などが日本人の教員とどのように違うのか探っていきたい。

オ スピーキングテスト全般の反省・課題

スピーキングテストのルーブリックは、評価の信頼性と妥当性があるかどうかが非常に重要である。この1年間パフォーマンステストを実施してみて、テストを実施する前に教員間での打ち合わせを入念にやらなければいけないと実感した。細心の注意を払ってルーブリックを作成しても、各教員によってその文面から捉えるイメージが異なることが多い。今年度はそれを防ぐために多くの生徒がどの得点帯に入るかという平均点を想定するようにした。それらを徹底しても、教員間のズレはあると感じた。次年度は、スピーキングテストの録音を活用することや、事前に生徒の反応を想定して評価表を作成た上でテストを実施することを検討したい。

また,妥当性に関しては,テストを行う際に学習到達目標が明確ではなかったことが反省点である。

第2回と第3回では内容や表現を重視してテストを行う等の改善を試みたが、次年度は学習到達目標を明確にし、目標に対する到達度を測るためのテストを実施したい。

カ 生徒の取組とアンケートの実施結果(資料7 アンケート結果参照)

① 英語学習への意識

アンケート結果から見ると英語は好きではないが、英語を話せるようになりたいという気持ちは生徒の中にあるようである。普段の授業においても、生徒が「英語が話せるとかっこいいよね」や「英語を話せるようになりたい」と話している声が聞こえたり、アンケートにも「友人と英語を話す活動が楽しい」と答えたりしている。また、ALTに積極的に話しかける生徒も多く見られる。一方で、授業の様子から英語を話すことに自信のもてない生徒も多いように感じる。このことから、教員は生徒に「英語を話せる」という自信をつけさせなければいけないと感じる。自信をつけなければ、英語を話す機会を与えたとしても間違いを恐れてしまい、その機会を十分に生かせずに終わってしまうからである。「話すこと」「書くこと」というアウトプットの能力を身に付けることの重要性を強く感じている生徒が多いので、授業内でもコミュニケーション活動を増やし、生徒の自信へとつなげていきたい。

② スピーキングテストについて

スピーキングテストに意欲的に参加させるためには、事前に評価表を生徒に提示することが効果的であることが分かった。また、スピーキングテストは英語を話すことの重要性を意識させることにもつながっているため、これからもスピーキングテストや日頃の授業を通して、より多くの生徒に英語を勉強する上での動機づけになるように日々指導していきたい。

キ 次年度に向けて

① 1年間の見通し、目標の明確化

年度当初にスピーキングテストを実施することを決めたものの,目標設定を明確にしないままスタートしてしまったことが今年度の反省すべき点である。次年度は1年間を通して,生徒にどのような能力を身に付けさせるのか,1年間の学習到達目標は何かなどを教員間で共有するだけではなく,生徒にも周知しなければならない。

また、本校生徒の長所や特性を生かした指導を柔軟に行っていく必要があると感じている。今年度 の生徒の様子を見ると、間違いを恐れる生徒が少なく、授業における反応もよい。そのような現状で あるからこそ、生徒にどのような能力を身に付けさせたいかを話し合い、それを教員間の共通意識と してもつことにより、学習到達目標の達成に向けた一致した指導を行っていく必要がある。

② スピーキングテスト実施のための計画

スピーキングテストを実施するには十分な準備が欠かせない。実施要項の作成,題材選び,ルーブリックの作成,カードなどの必要なものの準備,音声を録音するためのレコーダー,映像を記録するためのビデオカメラ,テストを実施するための授業時間の固定や教室の確保,教員間の評価基準のすり合わせ,評価結果の確認,データの保存など,多くの準備と労力を必要とする。1年間の綿密な計画を立て,教員間で作業を分担するなどの工夫をする必要がある。

③ クラスサイズ

本校では第1学年では少人数クラスを編成することができているが、第2学年では少人数クラスを 編成することができない。クラスサイズに応じたスピーキングテストの実施方法を検討していく必要 がある。

④ ルーブリックの有効活用

次年度に向けて、まずは教員間で生徒にどのような英語力を身に付けさせたいのかを明確にし、それに向けてどのような指導を行い、どのようなスピーキングテストを行うかを年度当初に決めておく必要がある。また、スピーキングテストにおいて大切なのはルーブリックである。学習到達目標との関連を重視して作成しなければならない。生徒にはテストを受けた後に評価表を見て自分の英語力について振り返る機会を与えていかなければならない。それが生徒に対しての還元になるからである。







第3回スピーキングテスト 事前指導

第3回スピーキングテスト リハーサル

第3回スピーキングテスト 当日

(2) ライティングテスト

ア目的

入学時の愛知県の新入学生徒英語学力調査の結果より、「書くこと」に問題を抱える生徒が多い状況 からライティングの指導とテストを通して、自分にもできるという実感を得させたいと考えた。また、 英語学習に対する動機づけや自信にもつながるからである。

イ 第1回ライティングテスト(資料8 第1回ライティングテスト実施要項)

① 出題内容と実施方法

身近な話題として自分自身や家族,友人などについて書くこととした。テストは,授業の最初の20分間を使って実施した。テスト中の辞書の使用を認めた。

② 評価の観点と配点

評価の観点は、語数と内容と文法の正確さの3項目とした。配点は、語数が10点、内容と文法を5点ずつの20点満点とした。また30語以上書くことを原則とした。

生徒には、出題内容については事前に知らせず、これまでの英語表現 I の授業で作成した英文の内容と密接に関連する事柄を出題する、という指示をした。生徒には 20 分間で 30 語以上、できるだけたくさん書く、ということだけを伝え、評価の観点や配点については伝えなかった。

③ 結果

書かれた英文の平均語数は47語であり、目標とした30語を上回った。

資料9に見られるように、中学校レベルの基本的な英単語や文法項目について習得できていない生徒が多い。また、資料10に見られるように I am…, I like … など単一の表現の繰り返しで解答用紙を埋めていたものも少なくなかった。

生徒の取組については、スピーキングテストと比べるとあまりよくなかった。これは、今回のライティングテストでは、具体的な出題内容を提示しなかったことにより、生徒がテストに向けてどのようにして取り組んだらよいかが分からなかったことが原因と考えられる。

④ 反省

予想はしていたが、生徒の基本的な英語力不足が明らかになった。

1年生の段階では、ライティングテストを通して、生徒に英語による自己表現に取り組む機会を増

やし、英語で表現できるという実感を与えることを優先させたいと考えた。そこで、第2回のライティングテストでは、生徒に明確な目標を与え、生徒のモチベーション向上を図るとともに、出題内容の手がかりを与えて、やればできる、という実感をいかに与えるかについて考えた。

ウ 第2回ライティングテスト(資料11 第2回ライティングテスト実施要項)

① 第1回ライティングテストの結果を踏まえての改善点

一つ目の改善点は、出題内容を具体的に生徒に提示をしたことである。これは、テストに対する生徒のモチベーションを高め、学習を促すことが目的である。二つ目は、評価の観点と基準、配点等を全て具体的に生徒に提示したことである。これも同様に生徒のモチベーションを高める効果をねらってのことである。三つ目は、解答例を提示したことである。あることを人に伝える場合、英語の語彙力や文法に加えて、それをどのように伝えたらよいか、という点についても問題を抱えている生徒が多い。そこで、文章の初めと終わり、また、文中で使える表現を提示することで、さらに生徒のモチベーションを高め、同時に効果的に自分の気持ちを伝える表現を習得することをねらいとした。

② 出題内容

アメリカの友人に電子メールを書くという設定で、自分が通っている学校(部活動や行事)や、自 分の住んでいる町を紹介することとした。評価の観点は前回同様、語数、内容、文法とした。ただし、 2学期の授業で学習した、受動態と助動詞を使う、という条件をつけた。

③ 結果

書かれた英文の平均語数は 57 語であり、第1回の 47 語から増加した。 **資料 12** と**資料 13** は第1回 と第2回に同じ生徒が作成した解答である。語数が大幅に増加していることに加えて、ミスはあちこちに見られるものの、表現が豊かになっていることが分かる。

文法や綴りの間違いについては、第1回同様、あちこちに見られた。指定した文法項目については、 両方とも書けている解答が少なかった。一方、内容については、解答例を提示したことにより、分か りやすく書けている解答が多くなったが、基本的な英単語が習得できていないために、相手に内容を 十分伝えられない解答も見られた。

④ 第1回と第2回を比較したアンケートの実施(資料14)

第2回では事前に評価基準と解答例を提示した。アンケートでは第2回の方が難しかったと答えている生徒が多いにもかかわらず、平均語数は増加している。このことから、第2回の方が、テストに向けた取組がよかったと言える。

評価基準の提示については、何をどのように評価されるかはっきりして取り組みやすくなった、と ほぼ全員の生徒が答えていた。

また、解答例の提示については、どのように書けばよいか分かって、モチベーションが上がったという回答がほぼ全員となった。一方で、ない方がよい、と答えた生徒からは、解答例にとらわれすぎて、自分の言葉が出てこない、という意見もあった。

エ 第3回ライティングテスト(資料15 第3回ライティングテスト実施要項)

実施に向けて

第2回の結果から、事前に評価の観点や基準、解答例を提示することにより、生徒の取組が改善され、分かりやすい内容の解答が増えた。今回のテストでは日本人教員に加えて、ALTにも評価を依頼することにした。これは、日本人教員の評価とどのような違いが見られるかを確認するとともに、生徒の解答にALTがコメントを記入することにより生徒のライティングに対する取組がさらによくなることを期待したからである。

② 出題内容

アメリカ人の友人に電子メールを書くという設定で、高校卒業後の進路や将来の夢について相手に 伝わるように段落を用いて書かせることにした。同じ時期のLTにおいて、進路について考える機会 があったので、それを生かしたいと考えた。

③ 指導と評価の工夫

第3回では、段落を用いたライティングに取り組ませることとした。一つの段落には一つの言いたいこと、段落の初めに自分の意見を述べて、それを説明する文をつなげる、という指導をした。また、 段落構成や内容といった評価項目について、日本人教員とALTの評価に差が見られるかどうかを確認することとした。

オ 今後の課題

今年度初めてライティングテストを実施したことから、全てが試行錯誤だった。まずは、実施して みて、問題点を次回につなげるという形でライティングテストに取り組んできた。現段階では、ライ ティングテストの体裁が何とか整った程度にすぎない。

評価の信頼性については、ある生徒の解答用紙をコピーして、それぞれの教員が同じ解答を採点することにより、生じたズレを修正する対応をした。日本人教員とALTの評価の観点や、評価基準に対する認識の違いなどを、第3回のライティングテストで確認をしていきたいと考えている。

ライティングテストに向けた取組と,返却される評価結果を通して,生徒が自分にもできると実感 し,さらなる課題を見つけ,それに向けて取り組んでいく機会を増やしていきたいと考えている。

(3) ルーブリックの研究

本校では、スピーキングテスト・ライティングテストのパフォーマンステストを実施する際、ルーブリックを用いた評価を行った。妥当性・信頼性のあるルーブリックの作成方法や、学習指導の過程でのルーブリックの活用方法について研究を進めた。

ア ルーブリックの長所

ルーブリックの長所として考えられる事柄を以下にまとめた。

- ① 客観的で信頼性の高い評価を観点別に行うことができ、その評価の妥当性も高い。
- ② 本来, 点数化して評価することが困難なパフォーマンスに対して, 適切な評価を行うことができる。
- ③ 複数の評価者が手分けをして評価を行う場合の評価基準が明確になる。
- ④ パフォーマンステストを実施する前後にルーブリックを提示することで、事前・事後の指導をより有意義なものにできる。

イ ルーブリックの活用方法

今年度は、ルーブリックをどのように事前・事後の指導に活用できるのかという点に注目した。

① 事前の提示 ―学習の指針としてのルーブリック―

ルーブリックを事前に示すことにより、パフォーマンステストにおける学習到達目標を明確に示す ことができる。また、特に重点的に取り組ませたい項目があれば、その項目の配点を高くすることで 生徒の取組を強化することができる。

具体例を挙げると、本校では、まず1年生のうちに文法ミスを恐れずにたくさんの英文を書く姿勢を身に付けてほしいと考えている。そのため、ライティングテストでは、文法の配点を小さくし、書かれた英文の量の配点を大きくした。こうしたルーブリックを事前に生徒に提示することで、生徒はミスを恐れず、より積極的に英文を書くようになっていった。

② 事後の提示 一評価のフィードバックによる自律的学習者の育成に向けて一

パフォーマンステストの評価結果をルーブリックの形式で生徒に示すことで、生徒は自身のパフォーマンスを客観的・観点別に把握することができる。ルーブリックを用いた評価結果から、何ができて、何ができなかったのかということが分かり、その後、どのような事柄に力を入れていくべきなのかを自ら考えるきっかけとなる。こうした視点は自律的学習者を育てていく上でも大切である。

ルーブリックを用いた評価結果を、その後の指導につなげていくことが今後の研究課題である。

(4) 惟信版 CAN-DOリストの作成 (資料3)

まだ暫定版ではあるが、学習到達目標・学習指導・評価の一体化を図った本校独自のCAN-DOリストを作成することができた。作成に当たり、次のア〜カについて考慮した。

ア 学習到達目標としてのCAN-DOリスト

本校独自のCAN-DOリストの作成にあたり、『各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定のための手引き』をはじめ、CEFR、CEFR-J、実用英語技能検定(以下、「英検」という。)、TOEIC、GTEC、先進校の例等、できる限り多くのCAN-DOリストを参考にした。それらを研究していく過程で、英検等の外部検定機関のCAN-DOリストと、学校等の教育機関のCAN-DOリストでは目的・性質が異なるということが分かった。

英検等の外部検定機関のCAN-DOリストは「それぞれの級、スコアに達するとどのようなことができるのか」ということを結果論的に調査し、まとめたものである。

一方、学校等の教育機関のCAN-DOリストは、学習到達目標としての性質をもつ。そのため、CAN-DOリストに基づいて学習計画を作成し、指導を行い、テストを実施して、目標の達成度を評価することとなる。

したがって、教育機関である本校としては、学習到達目標としてのCAN-DOリストを作成するということを念頭に置くこととした。

イ 学習到達目標を共有するためのアンケートを実施

本校独自のCAN-DOリストを作成するために、まずはそれぞれの英語科教員の考えを共有する必要を感じた。そこで、英語科教員を対象に「生徒にどんな力を身に付けさせたいか」という内容に関するアンケートを実施した。そのアンケートの結果から、次の3つの共通点が浮かび上がった。

- ① 大学受験,特にセンター試験に対応できる英語力を身に付けさせる。また,英検準2級以上に合格できる力を身に付けさせる。
- ② 社会に出て英語が必要となった時に困らない英語力,特に実生活で有用な英語力を身に付けさせる。
- ③ 卒業後も主体的に英語を勉強していく姿勢を身に付けさせる。

高校生の進路指導を担う立場として、①が筆頭に来るのは当然のことである。ただし、受験のための英語とそれ以外の英語を区別して捉えるのは不自然な発想であり、しっかりとした英語力を養うことができれば、当然のこととして大学受験にも対応することができる。そうした視点に立って、あえて①は除外し、CAN-DOリストの作成にあたっては②と③に焦点を当てることにした。

ウ 高校3年間全体の流れを踏まえて 一逆算的発想法一

CAN-DOリスト作成のためには、次のような逆算的発想をする必要がある。

- ① まず初めに卒業までにどのような英語力を身に付けさせたいかという最終目標を設定する.
- ② そこから逆算して、「いつ、何が、どのくらい」できているべきかという学年ごとの目標

を設定していく。

本校では、英検準2級、CEFR-JでA2. 2レベルを最終目標として設定し、そこから逆算して、各学年の目標を設定した。

エ 教科書との対応

授業のベースになるのは教科書である。そのため、高校3年間全体の計画を踏まえて、極力教科書の内容に沿うように努めた。教科書をCAN-DOリストに取り込む際に最も困難であったのは、教科書の構成が文法事項ごとの配列になっている点である。CAN-DOリストは本来、行動指向アプローチの言語観が柱となっており、「実際に言葉を使って~ができる」という機能主義のゴールを設定するという発想で成り立っている。そのため、個々の文法事項をそのままCAN-DO statement にするのはふさわしくない。そうしたことから、文法事項ごとに配列された教科書を、機能主義に基づくCAN-DOリストに組み込む際には大いに手間取った。

また残念であったのは、現時点でコミュニケーション英語Ⅲの教科書を参考にすることができなかったことである。今年度に作成したCAN-DOリストは、コミュニケーション英語Ⅲの教科書を基に若干の改訂が必要になるかもしれない。

今後は教科書を選定する際に、学習到達目標としてのCAN-DOリストを念頭に置いて検討する必要がある。

オ 本校で重点的に指導したい事柄

本校で特に力を入れて指導したい事柄をCAN-DOリストに組み込むことにした。具体的には次の 3点である。

① クラスルームイングリッシュ

本校では英語で行う授業に向けて、まずはクラスルームイングリッシュを徹底させたいと考えている。そのため、「聞くこと」「話すこと」の欄にクラスルームイングリッシュに関する statement を取り入れた。

② 状況描写

身の回りの状況描写ができるということは、日常生活でコミュニケーションを図る際に、とても大切な能力である。

また、生徒の英語学習への動機づけとして、本校では積極的に英検を利用したいと考えている。英 検の二次試験では、絵を見て状況描写する問題が出題されている。

こうした点を踏まえ、本校で特に力を入れて指導したい事柄として、「話すこと」「書くこと」の欄に状況描写をするという statement を取り入れた。

③ 課題解決型の英語

本校では、日常生活や海外旅行での場面で課題に直面した際に、それらを解決できる能力を身に付けさせたいと考えている。そうした実生活で有用な課題解決型の英語力を育むために、本校では3年文型Aコースの生徒に学校設定科目「実用英語」を履修させる予定である。そこで、第3学年の「読むこと」の欄にそうした内容の statement を取り入れた。

カ CAN-DO statement 作成上の留意点

CAN-DOリストを作成するに当たって、学校教育で一般的に認知されている外部指標を参考にしたいと考えた。このような指標を用いることで、本校のCAN-DOリストが独りよがりなものとなることを防ぎ、より客観的なものにするためである。

CAN-DO statement を作成する際、特に留意した点は以下のとおりである。

- ① 「書くこと」「話すこと」のCAN-DO statement については、主にCEFR-Jを参考にした。
- ② 「読むこと」「聞くこと」については、CEFR-Jが教科書の構成に馴染まないため、学習指導要領の記述を参考にした。
- ③ 外部指標として英検を取り入れた。本校では、英語学習の動機づけとして英検を活用して いきたいと考えているためである。

5 実践のまとめと考察

(1) 評価の妥当性

授業を通して身に付けさせた力はその評価方法で測れているのか。そうした評価の妥当性を高めていくことは本研究の目的の一つである。

ア 評価の妥当性を高めるための今年度の取組

- ① 授業を通して身に付けさせたい力を明確にするよう心がけた。そして、その力をしっかり と測れるようなルーブリックの項目を作るように心がけた。
- ② 観点別評価を念頭に置き、ルーブリックのそれぞれの項目が、一つの観点のみを測るように、複数の観点が混在しないように気をつけた。
- ③ 第3回のパフォーマンステストでは、ALTに協力してもらうので、評価の妥当性を検証 する上で、彼らの意見を参考にしたい。

イ 今後の課題

今年度は、テストの目的を明確にすることと、的確な観点別評価を行うことを心がけてパフォーマンステストを実施した。しかしながら、その妥当性がしっかりと保たれているかについては十分な検証はできなかった。学習到達目標としてのCAN-DOリストで示した力をどのようにしてパフォーマンステストで測ることができるのか、どのようにして適切なルーブリックを作るのか、また具体的にどのようにして評価の妥当性を検証するのかを今後の研究課題とする。

(2) 評価の信頼性

評価は公平で正確であるべきで、評価者によって評価結果にブレが生じてしまうことは好ましくない。どの評価者が測っても同じような評価結果になるように評価の信頼性を高めていく必要がある。

ア 評価の信頼性を高めるための今年度の取組

今年度,ルーブリックを用いたパフォーマンステストを実施する際,評価の信頼性を確保するために以下のような工夫をした。

- ① ルーブリックの記述が明確で分かりやすくなるよう心がけた。
- ② 事前に幾つかの生徒の解答を評価者全員で採点し、採点基準のイメージを共有した。
- ③ 評価する集団の中での平均的な生徒の解答が、ルーブリックのどの「得点」に当てはまるのかという想定をし、あらかじめそのイメージを評価者全員で共有した。
- ④ 頻出することが予想される解答について、あらかじめ評価基準を評価者同士で確認した。
- ⑤ 評価に困った場合に備えて、テスト後に再検討できるよう、スピーキングテストのやりと りを I C レコーダー(もしくはビデオカメラ)で記録した。
- ⑥ 第3回のパフォーマンステストでは、ALTに協力してもらうので、評価の信頼性を検証 する上で、彼らの意見も参考にしたい。

イ 今後の課題

- ① 信頼性を高めるための工夫はしたものの、具体的な検証は不十分であったので今後研究を 進めたい。
- ② 信頼性を突き詰めて追求すると、解答例を一つ一つ列挙していかなければならなくなり、際限がない。解答例を細かく列挙することなく信頼性を保つには、どのようなルーブリックを用いればよいのか、今後の研究課題としたい。

6 成果と課題

(1) 実践の成果

ア 生徒の変化

- ① ライティングテストのルーブリックでは語数に重きを置いたため、生徒の書く英文の量が 顕著に増加した。スピーキングテストについても、「non-verbal communication」「声の大き さ」等、ルーブリックで取り上げた項目については、生徒の意識が向上し、パフォーマンス の向上につながった。
- ② パフォーマンステストを実施することにより、生徒がより積極的に授業での言語活動に取り組むようになった。

イ 教員の変化

- ① ルーブリックを用いた評価を行ったことで、パフォーマンスの評価方法の手がかりが得られた。そのため、英作文、スピーチ、発表等の言語活動を、以前よりも積極的に導入できた。
- ② 和文英訳に偏りがちであったライティングの指導が、自由英作文に近い形で行えるようになった。
- ③ ルーブリックには「学習の指針」と「評価基準」の二つの側面が備わっているため、パフォーマンステストに取り組ませる際の事前指導・事後指導を、より効果的に行うことができるようになった。
- ④ パフォーマンステストという共通の取組をすることで、教員間でコミュニケーションをとる機会が増え、結果としてチームワークが向上した。

ウ 学校全体(他教科)の変化

本研究に携わるに当たって、実技教科である体育科・音楽科の教員からパフォーマンスについての評価方法を学んだ。また、国語科の教員からは作文の指導方法・評価方法を学んだ。これらの教科の取組はとても参考になった。

他教科の教員との情報交換はとても新鮮で、英語科教員としての視野を広げる上で、非常に有意義であった。今後も、こうした教科を超えた学び合いを積極的に進めていきたい。本研究を教科間の交流を深めるきっかけとしたい。

(2) 今後の課題

ア パフォーマンステスト

- ① パフォーマンステストは、事前指導・事後指導を含めてかなりの時間を要する。また、計画立案・テスト実施・採点を通して教員の負担が相当に重い。このため、年間学習指導計画の作成を綿密に行う必要がある。
- ② 第1学年のコミュニケーション英語 I は 20 名の少人数クラスであったが, 次年度にパフォーマンステストを実施する予定であるコミュニケーション英語 II・英語表現 II はどちらも 40 人クラスでの授業である。そのため、テストの実施方法を検討する必要がある。

③ 信頼性・妥当性を過度に追求すると、パフォーマンステストの取組が消極的になりかねない。信頼性・妥当性が仮に不完全であっても、生徒が学習に取り組む機会となればよしとし、 反省を次のパフォーマンステストに生かす必要がある。

イ CAN-DOリスト

- ① 今年度作成した惟信版CAN-DOリストについて、尾関教授から「読むこと」の項目の statement が大雑把で改善の余地がある、という助言をいただいており、改善に取り組んで いく。
- ② 今年度は、CAN-DOリストの statement をルーブリックの形で具体化し評価するという作業が不十分であった。次年度以降は、学習到達目標である惟信版CAN-DOリストを反映させる形で、年間学習指導計画・単元計画・評価計画を作成していくことになる。こうした視点からCAN-DOリストの改善を行っていく。

ウ 現在検討中の新たな取組

① ポートフォリオ

次年度の第1学年から、新たにポートフォリオを導入する予定である。生徒一人一人にファイルを 持たせ、英作文等の学習の記録を保管させる計画である。どのような形でポートフォリオを効果的に 活用していくことができるのか、これから研究を進めていく。

② クラスルームイングリッシュの充実

新学習指導要領には「授業は英語で行うことを基本とする」という方針が示されている。次年度以降,本校では,クラスルームイングリッシュの充実に取り組んでいきたいと考えている。生徒がクラスルームイングリッシュを覚えたり,使用したりするようになるための具体的な方策を検討中である。

③ プロセス・ライティング

現状では、その場で一度きりの機会としてライティングテストを実施している。しかしながら、「生徒による下書きの提出」→「教員によるコメント」→「生徒による書き直し」というやりとりを何度も繰り返して最終的な作品を完成させていくプロセス・ライティングという手法もある。今後、本校での導入を検討していきたい。

④ 生徒の自己評価と相互評価

今年度は教員による評価が中心であったが、生徒の自己評価や相互評価の在り方も検討していきたい。

7 おわりに

3年間の計画である本調査研究も、いつの間にか最初の1年が終わろうとしている。それまでの日常の業務に加える形で、新たに本調査研究に取り組まなければならないため、本当に慌ただしく、戸惑いながら、一日一日が過ぎていった。

まずは調査研究体制を確立するための組織づくりをするために、本調査研究の中心となる校内委員会を発足させた。校内委員会では、毎週何時間にも渡り、労力を惜しむことなく議論を重ね、3年間の事業計画、CAN-DOリスト、ルーブリック等、さまざまな調査研究を行った。そのおかげで本校独自のCAN-DOリストが完成し、年3回のスピーキングテスト・ライティングテストを行うことができた。

本調査研究は、多様な学習成果の評価手法を研究していくことに主眼が置かれているが、本校英語科としては調査研究を狭く評価手法のみに限定して捉えるのではなく、本校の英語教育の取組をいか

にして充実させていくかという視点に立って、広く大きく捉えてみることにした。

評価手法を調査研究する前提として、生徒のコミュニケーション活動を充実させていくという英語教育全体の流れがある。あくまでも生徒のコミュニケーション活動を充実させることが出発点であり、その帰結としてパフォーマンステスト等の評価手法がある。日々の教育実践の中で生徒のコミュニケーション活動を豊かなものにしていくことが、結果的には評価手法の研究の成功につながるはずである。

現在、日本の英語教育は大きな転換期を迎えようとしている。新学習指導要領に基づくコミュニケーション活動を中心とした授業や、CAN-DOリスト・年間学習指導計画・単元計画の作成などを実現していくためには、教員全体が一つのチームとして、万全の協力体制のもとで取り組む必要がある。教員同士がしっかりとコミュニケーションを図り、英語教育についての言語観・指導観・問題意識を共有していかなければならない。個性・経験・価値観の異なる教員が同じ方向を向いて学習指導に携わっていく。それは決して容易なことではなく、そこに本調査研究の難しさもあるように思う。

次年度は、新たに第2学年のコミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅱでの取組も加わる。また、CAN-DOリストを反映させる形で年間学習指導計画、単元計画の作成にも取り組む予定である。本調査研究が生徒にとって有意義なものとなるように、くれぐれも「研究のための研究」に陥ってしまうことのないように、誠心誠意取り組んでいきたい。その成果が、多少なりとも他校の先生方の参考となればと願う。

〇 参考文献

阿部邦彦 (2010)『高等学校外国語科におけるコミュニケーション能力の育成を目指した単元設計の在り方―明確な Learning Outcomes を出発点にして―』山梨県総合教育センター.

尾関直子 (2013)「CAN-DOリストと自律した学習者」『東北学院大学論集』97. pp. 147-158.

キース・モロウ(編),和田稔ほか(訳)(2013)『ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)から学ぶ英語教育』研究社.

工藤洋路(2012) 「CAN-DOリストとは何か~CAN-DOリストの作成から活用に向けて」『英語教育』2012年10月増刊号.pp. 50-51,大修館書店.

国立教育政策研究所(2012)『評価規準の作成,評価方法等の工夫改善のための参考資料(高等学校 外国語)~新しい学習指導要領を踏まえた生徒一人一人の学習の確実な定着に向けて~』国立教育政策研究所教育課程研究センター.

投野由紀夫(編) (2013) 『CAN-DOリスト作成・活用 英語到達度指標CEFR-Jガイドブック』大修館書店.

投野由紀夫(2012)「CEFR-JのCAN-DO設定とその活用」『英語教育』2012 年 10 月増刊号. pp. 66-68, 大修館書店.

文部科学省(2009)『高等学校学習指導要領』文部科学省.

文部科学省(2010)『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』文部科学省.

文部科学省(2013)『各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定のための手引き』文部科学省初等中等教育局.

文部科学省(2012)『言語活動の充実に関する指導事例集~思考力,判断力,表現力等の育成に向けて ~【高等学校版】』文部科学省.

文部科学省(2011)『国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策~英語を学ぶ意

欲と使う機会の充実を通じた確かなコミュニケーション能力の育成に向けて』外国語能力の向上に 関する検討会.

山口陽弘(2013)「教育評価におけるルーブリック作成のためのいくつかのヒントの提案―パフォーマンス評価とポートフォリオ評価に着目して―」『群馬大学教育学部紀要 人文・社会科学編』第62巻.pp. 157-168.

吉川 幸 (2012) 「「CAN-DO形式の到達目標」設定のポイント」『英語教育』2012 年 10 月増刊 号. pp. 64-65, 大修館書店.

〇 参考資料及びウェブページ

株式会社ベネッセコーポレーション『指導に活きる can-do 形式の到達目標 GTEC for STUD ENTS』株式会社ベネッセコーポレーション.

株式会社ベネッセコーポレーション『生徒を伸ばす 「到達目標×指導×評価」 GTEC for ST UDENTS』株式会社ベネッセコーポレーション.

株式会社ベネッセコーポレーション『卒業時から「逆算」して考える can-do 形式の到達目標 GT EC for STUDENTS』株式会社ベネッセコーポレーション.

文部科学省―ブリティッシュ・カウンシル共催シンポジウム『CAN-DOリストを活用した学習到達目標の設定と評価~CEFRが日本にもたらす示唆~』

(http://www.britishcouncil.jp/programmes/english-education/updates/report-japan/can-do-list) 英検 Can-doリスト (http://www.eiken.or.jp/eiken/exam/cando/list.html)
GTEC can-do statements (http://gtec.for-students.jp/cando/)

<資料1>

愛知県立惟信高等学校の概要

1 学校名,校長名

学校名	アイチケンリツイシンコウトウガッコウ 愛知県立惟信高等学校
校長名	栗本整

2 所在地, 電話番号, FAX番号

所在地	愛知県名古屋市港区惟信町2-262
電話番号	0 5 2 - 3 8 2 - 1 3 5 5
FAX番号	0 5 2 - 3 8 4 - 4 6 1 4

3 学年・課程・学科別幼児・児童・生徒数、学級数

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		計	
全日制	普通	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
	计	361	9	346	9	307	8	1014	26

4 教職員数

校長	教頭	教諭	養護教諭	期限付 任用教諭 講師	実習教員	期限付実習教員	事務職員	用務員	計
1	2	50	2	4	1	1	5	1	67

(平成25年1月9日) 平成25年度入学生教育課程 愛知県立惟信高等学校 全日制課程 普通科 学校番号10 第2学年 第3学年 単位数計 標準 型・コース 類型・コース 類型・コース 単位 第1学年 類 教科 科目 備考 理 理 文A 文Β 理 文Α 文Β 文A 文Β 4 5 5 5 国語総合 5 3 国語表現 2 現代文A 国語 4 現代文B 3 7 6 4 3 3 2 4 2 2 古 典 A 4 □から1科目 3 3 2 3 3 $\square 2$ 6 6 $2 \square 2$ 古 典 B 2 2 2 2 2 世界史A 4 $\Diamond 3$ \diamondsuit から1科目 $\Diamond 3$ $\Diamond 4$ $\Diamond 4$ $\Diamond 7$ $\Diamond 7$ 世界史B **4** 2 2 **4** 2 **4** 2 **4** 2 ◆から1科目 日本史A 地歴 4 \Diamond 3 $\Diamond 3$ $\Diamond 4$ $\Diamond 4$ \Diamond 7 $\Diamond 7$ 世史Bと地理A、 日本史B 日史Aと日史Bを 2 **4** 2 **4** 2 2 **4** 2 **4** 2 2 地 理A 4 一括選択 地 理 B 3年次の◇は2年次 2 3 4 現代社会 2 と同科目 公民 倫 理 2 2 2 政治・経済 3 2 2 2 数 学 I 2 4 1年生数学 I、 1 3 3 3 4 4 4 数 学Ⅱ 数学Ⅱは期間履修 5 1 5 6 数 学Ⅲ 2 2年生理型数学Ⅱ、 2 2 2 2 学 A 数 数学 2 数学Ⅲは期間履修 **2** 2 2 2 2 2 4 学 B 文 型 数学演習A 3 3 3 文型 数学演習B 3 ■から1科目 理型数学演習 2 $\square 2$ $\square 2$ 2 物理基礎 2 4 物 理 **4**2 43 45 りから1科目 化学基礎 2 2 2 2 2 ♭から1科目 4 学 3 4 化 7 物理と地学基礎、 理科 生物基礎 2 2 3 b 2 2 3 b 2 生物と生物基礎を 4 3 3 **4**2 3 43 3 45 一括選択 2 地学基礎 b 2 b 2 3年次の5は2年次 学 地 4 と同科目 7~8 体 育 3 3 3 3 2 2 8 8 8 保健 2年生理型生物基礎、 2 1 1 1 1 2 2 2 体育 保 健 生物は期間履修 2 ***** 2 ***** 2 ***** 2 ***** 2 音 楽 I # 2 2 # 2 音 楽Ⅱ 芸術 美 術 I 2 ***** 2 ***** 2 ***** 2 ***** 2 *から1科目 2 # 2 # 2 術Ⅱ #1年次と同科目 コミュニケーション英語基礎 2 コミュニケーション英語 I 3 3 3 3 3 コミュニケーション英語Ⅱ 4 3 3 3 3 3 3 外 コミュニケーション英語Ⅲ 4 3 3 3 3 3 3 2 3 3 3 3 英語表現I 2 4 3 2 3 3 3 6 5 5 英語表現Ⅱ 2 2 2 実 用 英 語 2 2 発展英語 2 2 家庭基礎 2 2 2 2 2 4 家庭総合 2 2 2 2 2 社会と情報 情報 2 情報の科学 1 3~6 総合的な学習の時間 1 1 1 1 3 1 1 1 3 3 1 1 1 特活 ホームルーム 合 3 2 3 2 3 2 3 2 3 2 3 2 3 2 9 6 96 9 6

平成25年度 愛知県立惟信高等学校 CAN-DOリスト(1版) **20130109**

平成25年月	是 愛知県立惟信局等字校 CAN-DOリスト 1年	2年	3年
<理解> 読むこと Reading	 コミュニケーション英語 I の教科書(1600語レベル)を 読んで、概要や要点をとらえることができる。 	・コミュニケーション英語 II の教科書 (2300語レベル) について、 速読したり精読するなど目的に応じた読み方ができる。	 ・コミュニケーション英語Ⅲの教科書(3000語レベル)について、速読したり精読するなど目的に応じた読み方ができる。 ・看板、メニュー、携帯メール、簡単なポスターや招待状等の日常生活で使われている非常に短い簡単な文章を読み、理解することができる。 ・簡単な英語で表現されていれば、旅行ガイドブック、レシピなど実用的・具体的で内容が予想できるものから必要な情報を探すことができる。
<理解> 聞くこと Listening	 ・かなり配慮して、1文ずつ、ゆっくり話してもらえば、教師による英語での簡単な指示・説明を聴いて理解することができる。 ・かなり配慮して、1文ずつ、ゆっくり話してもらえば、ごく簡単な英語で話された、事物に関する紹介や対話を聞いて、情報や考えを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。 	 ある程度配慮して話してもらえば、教師に英語での指示・説明を聴いて理解することができる。 ある程度配慮して話してもらえば、簡単な英語で話された、事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。 	 はっきりとした発音で話してもらえば、教師による英語での 指示・説明を聴いて理解することができる。 はっきりとした発音で話してもらえば、分かりやすい展開の、 事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や 考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりすることが できる。
<話すこと> 発表 Spoken Production	 ・英語の授業の中で、教師に簡単な質問をしたり、許可を求めることができる。 ・絵を見て,風景や状況を、簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い、簡単に描写することができる。 ・前もって話すことを用意した上で、基礎的な語句、定型表現を用いて、人前で実物を見せながらその物を説明することができる。 ・基礎的な語句、定型表現を用いて、限られた個人情報(家族や趣味など)や簡単な情報(時間や日時、場所など)を伝えることができる。 ・前もって発話することを用意した上で、限られた身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い、簡単な意見を言うことができる。 	 ・英語の授業の中で、教師に質問をしたり、許可を求めることができる。 ・絵を見て、風景や状況を,簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い、複数の文で描写できる。 ・一連の簡単な語句や文を使って、自分の趣味や特技に触れながら自己紹介をすることができる。 ・写真や絵、地図などの視覚的補助を利用しながら、一連の簡単な語句や文を使って、自分の毎日の生活に直接関係のあるトピック(自分のこと、学校のこと、地域のことなど)について、短いスピーチをすることができる。 ・一連の簡単な語句や文を使って、意見や行動計画を、理由をあげて短く述べることができる。 	 ・英語の授業の中で、教師に質問をしたり、許可を求めることができる。 ・絵を見て、風景や状況を,簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い、複数の文で描写できる。 ・写真や絵、地図などの視覚的補助を利用しながら、一連の簡単な語句や文を使って、自分の毎日の生活に直接関係のあるトピック(自分のこと、学校のこと、地域のことなど)について、短いスピーチをすることができる。 ・一連の簡単な語句や文を使って、意見や行動計画を、理由をあげて短く述べることができる。 ・使える語句や表現を繋いで、自分の経験や夢、希望を順序だて、話しを広げながら、ある程度詳しく語ることができる。
<話すこと> やりとり Spoken Interaction	 ・教師による、英語での簡単な指示に対して簡単な応答することができる。 ・あいさつをはじめとして、簡単なやりとりをかわすことができる。 ・なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所について質問したり、質問に答えたりすることができる。 ・家族、日課、趣味などの個人的なトピックについて、(必ずしも正確ではないが)なじみのある表現や基礎的な文を使って、質問したり、質問に答えたりすることができる。 	 教師による、英語での指示・説明に応答することができる。 自分のことなど、なじみのある話題について英語で短いやりとりができる。 基本的な語や言い回しを使って日常のやりとり(何ができるかできないかや色についてのやりとりなど)、において単純に応答することができる。 ・趣味、部活動などのなじみのあるトピックに関して、はっきりと話されれば、簡単な質疑応答をすることができる。 ・基本的な語や言い回しを使って、人を誘ったり、誘いを受けたり、断ったりすることができる。 	 ・教師による、英語での指示・説明に応答することができる。 ・簡単な英語で、意見や気持ちをやりとりしたり、賛成や反対などの自分の意見を伝えたり、物や人を比べたりすることができる。 ・予測できる日常的な状況(郵便局・駅・店など)ならば、様々な語句や表を用いてやりとりができる。 ・身近なトピック(学校・趣味・将来の希望)について、簡単な英語を幅広く使って意見を表明し、情報を交換することができる。
<書くこと> 書くこと Writing	 ・簡単な語や基礎的な表現を用いて、身近なこと(好き嫌い、家族、学校生活など)について短い文章を書くことができる。 ・自分の経験について、辞書を用いて、短い文章を書くことができる。 ・趣味や好き嫌いについて複数の文を用いて、簡単な語や基礎的な表現を使って書くことができる。 ・日常的・個人的な内容であれば、招待状、私的な手紙、メモ、メッセージなどを簡単な英語で書くことができる。 	 ・文と文を and, but, because などの簡単な接続詞でつなげるような書き方であれば、基礎的・具体的な語彙、簡単な句や文を使った簡単な英語で、日記や写真、事物の説明文などのまとまりのある文章を書くことができる。 ・身の回りの出来事や趣味、場所などについて、個人的経験や自分に直接必要のある領域での事柄であれば、簡単な描写ができる。 ・聞いたり読んだりした内容(生活や文化の紹介などの説明や物語)であれば、基礎的な日常生活語彙や表現を用いて、感想や意見などを短く書くことができる。 	・自分に直接関わりのある環境(学校、職場、地域など)での 出来事を、身近な状況で使われる語彙・文法を用いて、ある 程度まとまりのあるかたちで、描写することができる。 ・身近な状況で使われる語彙・文法を用いれば、道筋を立てて、 作業の手順などを示す説明文を書くことができる。
外部指標 <目標>	 ・英検3級(全員) ・英検準2級(5%; 18名) ・受容語彙: 2000語 *中学校(1200) +コミュ英I(400) = 1600語 *英検3級≒中学卒業程度(2000語レベル) [身近な英語を理解し、また使用することができる。] 	・英検準2級(15%; 45名) ・英検2級(1%; 3名) ・受容語彙: 3600語 *1年次まで(1600)+コミュ英Ⅱ(700)=2300語 *英検準2級≒高校中級程度(3600語レベル) [日常生活に必要な英語を理解し、また使用することができる。]	・英検準2級(40%;140名) ・英検2級(3%;10名) ・受容語彙5000語 *2年次まで+コミュニケーション英語Ⅲ(700)=3000語 *センター試験(4000語起) *英検2級≒高校卒業程度(5000語レベル) [社会生活に必要な英語を理解し、また使用することができる。]

<資料4>

平成25年度 1年生 第1回スピーキングテスト実施要項(改訂版)

目的 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するため、日々の授業で身に付けた コミュニケーション能力(スピーキング能力)を確認し、活発な言語活動の一助とする。

対象 1 学年全員

科目 コミュニケーション英語 I

日程 6月10日(月)~6月14日(金)までの間で、1クラスにつき2時間分の授業で実施する。 原則、授業時間を利用する。ただし、予想以上に時間を要する場合は、昼放課や授業後を利用する。

会場 面接教室 → 移動教室自習教室 → HR教室

役割 面接官1名

教室監督1名

各担当者で相談して決めてください。

		,			
	6月10日 (月)	6月11日 (火) 木曜授業	6月12日 (水)	6月13日 (木)	6月14日 (金)
1 (7)	1-8①	1-1①	1-72		1-32
1限	久保・伊庭	野々山・内藤	内藤・野々山		堀口・野々山
2限	1-9①	1-62			
2 1412	内藤・堀口	久保・伊庭			
9.7/H		1 - 7 ①			1-92
3限		内藤・野々山			内藤・堀口
4 (78)	1-6①	$1 - 2 \bigcirc$	1-42	1 - 2 ②	
4限	久保・伊庭	野々山・久保	伊庭・堀口	野々山・久保	
5 限		1-4①	1-12		
J PIX		伊庭・堀口	野々山・内藤		
6限	1-5①	1-82	$1 - 3 \bigcirc$		1 - 5 ②
O PAX	伊庭・内藤	久保・伊庭	堀口・野々山		伊庭・内藤
7 限					
業後	評価付け	評価付け	評価付け	評価付け	評価付け

実施方法 質問リストを事前に生徒に提示し(原則テスト①の1週間前にプリントを配布し説明をする)、当日までに準備するよう指示。生徒には評価の観点を前もって伝えておく。当日、生徒は各教室でインタビューテストの勉強あるいは、自習を行う。今回は、出席番号順に面接を行うので自分の順番が来たら、生徒は試験会場へ移動し、一人ずつ試験官とインタビューを行う。(1番の者が試験を受けている間、後5名の者は廊下の椅子で静かに待機する。)試験官はインタビューの内容を録音し、必要であれば、後ほど担当教員らで評価する。基本的にはその場で評価をする。インタビューが終わった生徒は、教室に戻り、静かに自習する。

試験時間

一人2~3分程度とする。質問は以下のようにする。

【Warm-up】①②両方とも。

- 【A】テキストからの質問①~③から1つ。
- 【B】日常会話の質問①②から1つ。
- 【C】Open question①~③から1つ。原則、2文以上で答える。

≪注意≫質問は基本的には2回まで繰り返すことができる。

<質問リスト>

List of questions

[Warm-up]

- 1) What is your name?
- 2 How are you doing today?

- ①Why do you study English?
- ②Where do you find English words?
- ③What is your favorite food in bentos?

[B]

①What did you do last weekend?

How was your weekend?

2Do you have any plans for this weekend?

What are you going to do?

【C】*原則2文以上。

- 1) Tell me about your family.
- 2 Tell me about your dream.
- 3 Tell me about your favorite thing.

第1回スピーキングテスト

評価表 ()組()番 氏名(

)

項目	評価基準	評価	点数	結果
Attitude	積極的に取り組む姿勢が見られる。	Α	5	
	取り組もうとしている。	В	3	
	取り組む姿勢が見られない。	С	0	
[A]	質問を正しく理解している。フルセンテンスで文法的な ミスもほぼなく,必要な情報を伝えることができている。	А	5	
	質問を正しく理解している。フルセンテンスではなく, 文法的なミスも見られるが,相手に必要な情報を伝える ことができている。	В	4	
	質問を正しく理解しておらず,正しい答えではないが, 相手に伝えるように答えている。	С	3	
	質問を正しく理解しておらず,正しい答えではなく,あ まり相手にも言いたいことが伝わらない。	D	2	
	質問が理解できず、何も答えることができない。	Е	0	
(B)	質問を正しく理解している。フルセンテンスで文法的な ミスもほぼなく,必要な情報を伝えることができている。	А	5	
	質問を正しく理解している。フルセンテンスではなく, 文法的なミスも見られるが,相手に必要な情報を伝える ことができている。	В	4	
	質問を正しく理解しておらず,正しい答えではないが, 相手に伝えるように答えている。	С	3	
	質問を正しく理解しておらず,正しい答えではなく,あ まり相手にも言いたいことが伝わらない。	D	2	
	質問が理解できず,何も答えることができない。	Е	0	
(C)	質問を正しく理解している。フルセンテンスで文法的な ミスもほぼなく,必要な情報を伝えることができている。	Α	5	
	質問を正しく理解している。フルセンテンスではなく, 文法的なミスも見られるが,相手に必要な情報を伝える ことができている。	В	4	
	質問を正しく理解しておらず,正しい答えではないが, 相手に伝えるように答えている。	С	3	
	質問を正しく理解しておらず, 正しい答えではなく, あまり相手にも言いたいことが伝わらない。	D	2	
	質問が理解できず、何も答えることができない。	Е	0	
TOTAL			/2	20

評価基準について

全体を通して

- ①冠詞や前置詞のミスは不問。
- ②主語や時制のミスは B~。
- ③質問の繰り返しを3回以上求めた場合は C~E の評価をする。
- ④「I don't know」という返答をした場合、E の評価をする。

各設間について

【Attitude】答えに工夫が見られ、努力している姿が見受けられた場合、Aの評価をする。

【Warm-Up】については評価しない。

【A】教科書からの質問。

英文で答えていない場合はB~。

【B】基本的な日常英会話の質問。

英文で答えていない場合は B~。

【C】自分のことを表現する。(英語表現 I とからんでいる質問もある。)

原則2文以上で答える。

1文で答えた場合は C~。

第1回スピーキングテストについて(生徒用)

- ①スピーキングテストの日程は各教科担当の指示に従ってください。 基本的に2回の授業を利用します。順番は<u>今回については出席番号順</u>で行います。 もし、面接の時間がかかりすぎた場合は、授業後にテストを行う可能性もあります。
- ②1学期の成績で、スピーキングテストの評価を20点分組み込みます。 テスト結果は後日報告します。

<u>評価の観点は、①取り組む態度</u> ②質問を理解し、質問の内容に対して的確に答えているかの2点です。

- ③スピーキングテストの形式は、先生と1対1のインタビュー形式で行います。一人あたり2、3分です。
- ④質問の内容を教えるので、テストまでに自分で答えを考え、しっかりと練習しておくこと。
- ⑤不正行為が発覚した場合はゼロ点と見なします。

以下は質問リストです。

どの質問がされるかは当日までわかりません。すべての質問について、英文で答えられるように、自分でしっかりと準備をしておいてください。テスト内容に関しての質問はいっさい受け付けません。また、「I don't know」という返答をした場合、ゼロ点とする。

List of questions

[Warm-up]

- 1) What is your name?
- 2 How are you doing today?

[A]

- ①Why do you study English?
- 2) Where do you find English words?
- ③What is your favorite food in bentos?

[B]

What did you do last weekend?

How was your weekend?

2Do you have any plans for this weekend?

What are you going to do?

【C】*必ず2文以上用意してくること。

- 1)Tell me about your family.
- 2Tell me about your dream.
- 3 Tell me about your favorite thing.

<資料5>

平成25年度 1年生 第2回スピーキングテスト実施要項(改訂版)

目的 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するため、日々の授業で身に付けた コミュニケーション能力(スピーキング能力)を確認し、活発な言語活動の一助とする。

対象 1 学年全員

科目 コミュニケーション英語 I

日程 11月18日(月)~11月22日(金)までの間で、1クラスにつき2時間分の授業で実施する。 原則、授業時間を利用する。ただし、予想以上に時間を要する場合は、昼放課や授業後を利用する。

会場 面接教室 → 移動教室 自習教室 → HR教室

役割 面接官1名

教室監督1名

各担当者で相談して決めてください。(今回は が担当者でお願いします。)

		\/CCV. (7		は日日でる場で	
	11月18日 (月)	11月19日 (火)	11月20日 (水)	11月21日 (木)	11月22日 (金) 考査前学習会
1 限	1-8① 久保・伊庭	1-5① 伊庭・内藤	1-7② 内藤・野々山	1-1② 内藤・野々山	1-3② 堀口・野々山
2 限	1 - 9 ① 内藤・堀口	1-9② 内藤・堀口		1-6② 伊庭・久保	
3限		1-8② 久保・伊庭			
4 限	1-1① 内藤・野々山	1-7① 内藤・野々山	1-4① 伊庭・ <mark>堀口</mark>	1-2② 野々山・久保	
5 限		1-6① 伊庭・久保		1-4② 伊庭・堀口	
6 限	1-3① 堀口・野々山	1-2① 久保・野々山			1-5② 伊庭・内藤
7 限					
業後	評価付け	評価付け	評価付け	評価付け	評価付け

実施方法 質問リストを事前に生徒に提示し(原則テスト①の1週間前にプリントを配布・説明し,授業時間 1時間を使ってスピーキングテストの練習をする),当日までに生徒同士で練習して準備するよう 指示。生徒には評価の観点を前もって伝えておく。当日,生徒は各教室でスピーキングテストの勉強あるいは、自習(英単語プリント)を行う。今回は、出席番号順の後ろから順に面接を行うので自分の順番が来たら、生徒は試験会場へ移動し、一人ずつ試験官とインタビューを行う。(受験者が試験を受けている間、後5名の者は廊下の椅子で静かに待機する。)試験官はインタビューの内容を録音し、必要であれば、後ほど担当教員らで評価する。基本的にはその場で評価をする。インタビューが終わった生徒は、教室に戻り、静かに自習する。

試験時間

一人2~3分程度とする。質問は以下のようにする。

- A【Warm-up】①②両方とも。
- B [Shopping at a Flea Market]

A [Warm-up]

- Tell me your name.
- 2 How are you doing today?

B [Shopping at a Flea Market]

- A: Hi! I'm looking for a [] . B: How about this ((1)) one? A: Oh it's [] . How much is it? B: (2) yen.
- A: It's too expensive. (I don't like the color. etc) Can you show me another one?
-) one? It's (B: How about this (3 4) yen.
-] . OK. I'll take this. A: It's [
 - ≪Bonus point≫
 - a. Can you give me a discount?
 - b. Come down a little more.
 - c. I'll buy three of them. Could you make it cheaper?
 - d. I'll take it if you make it half the price.

B⇒Student (shop owner) A⇒Teacher (customer)

☆注意点☆

授業内で学習した内容をもとに教員が提示したカードに沿って、それに応じた返答をする。カ ードの内容はテスト当日までわからない。カードは3ペア用意してあるので、その中から一つ 教員が指定するので、それに従って会話を進める。生徒は①~④の空欄を補充しながら会話を 進める。

Bonus point はやりとりが成立し、 $a\sim d$ の発言に対して、適切に対応できた場合に与える。そ れらに対する答えはテストまでに生徒自身が考える。

- A【Warm-up】は評価しない。
- B【Shopping at a Flea Market】を始める前にカードを見る時間を15秒与える。

第2回スピーキングテスト評価表 CLASS()NO.()NAME(

(B) Sho	(B) Shopping at a Flea Market										
評価項目	評価基準										
目的達成	相手の発言に対し スムーズ 柔軟に対応し、客 が、客がなが求めている物を る物を販売することがで とができる。		求めてい 売するこ	はなく、途中までし		適切な受け答えが できず, 客が求めて いる物を販売する ことができない。					
	10	6	5	3		0					
声	適度な音量で, はっ 後まで聞き取れる。			や小さい/大き 声が 聞き取ることは こと							
	4		2			0					
non-ver bal commu nication	適度に相手の目を見たり、効果的に身振り手振りを使って、コミュニケーションをとることができ、会話をスムーズに進めることができる。		意識することができ 識			や身振り手振りを意 ることがまったくで い。					
	4		2		0						
Bonus point			0		O						
TOTAL SCORE							/ 20				

第2回スピーキングテストについて(生徒用)

- ①スピーキングテストの日程は各教科担当の指示に従ってください。
 - 基本的に2回の授業を利用します。順番は今回については名簿順の後ろから順番で行います。
 - もし、面接の時間がかかりすぎた場合は、授業後にテストを行う可能性もあります。
- ②2学期の成績で、スピーキングテストの評価を20点分組み込みます。
 - テスト結果は後日報告します。
 - 評価の観点は、①目的達成 ②声 ③non-verbal communication の3点です。
- ③スピーキングテストは、先生と1対1の形式で行います。一人あたり2、3分です。
- ④授業時間(1時間)を利用し、練習をします。一生懸命取り組むこと。友人と繰り返し練習を行い、テストに備えること。また、それ以後テストの内容に関しての質問はいっさい受け付けません。
- ⑤プリントなどを持ち込むことはできません。また、不正行為が発覚した場合はゼロ点と見なします。
- ⑥評価基準は以下のようにする。(ただし、評価対象は B【Shopping at a Flea Market】のみである。)

A [Warm-up]

- 1)Tell me your name.
- 2 How are you doing today?

B [Shopping at a Flea Market]

- A: Hi! I'm looking for a [].
- B: How about this (①) one?
- A: Oh it's [] . How much is it?
- B: (②) yen.
- A: It's too expensive. (I don't like the color. etc) Can you show me another one?
- B: How about this (③) one? It's (④) yen.
- A: It's [] . OK. I'll take this.

≪Bonus point≫

- a. Can you give me a discount?
- b. Come down a little more.
- c. I'll buy three of them. Could you make it cheaper?
- d. I'll take it if you make it half the price.

A⇒Teacher (customer) B⇒Student (shop owner)

☆注意点☆

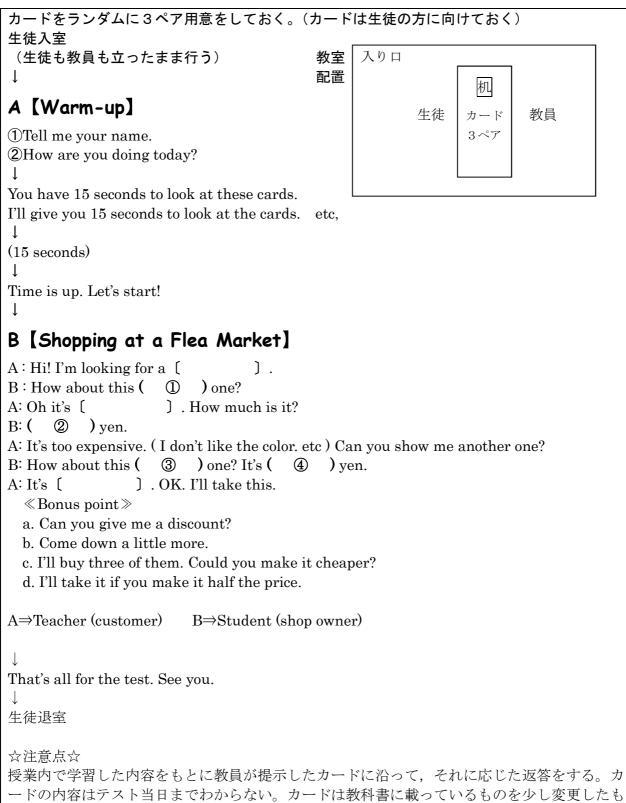
授業内で学習した内容をもとに教員が提示したカードに沿って、それに応じた返答をする。カードの内容はテスト当日までわからない。カードは3ペア用意してあるので、その中から一つ教員が指定するので、それに従って会話を進める。生徒は①~④の空欄を補充しながら会話を進める。

Bonus point はやりとりが成立し、 $a\sim d$ の発言に対して、適切に対応できた場合に与える。それらに対する答えはテストまでに生徒自身が考える。

- A【Warm-up】は評価しない。
- B【Shopping at a Flea Market】を始める前にカードを見る時間を15秒与える。

評価は以下の表に従って行う。

(B) Sho	(B) Shopping at a Flea Market										
評価項目	評価基準										
目的達成	相手の発言に対し 柔軟に対応し,客 が求めている物を 販売することがで きる。	が, 客を る物を販	ズではない 会話がスムー を求めてい はなく,途中ま 販売するこ か会話を進め		pまでし できず, 客が求め めるこ いる物を販売する い。(B: ことができない。						
	10	6	6	3		0					
声	適度な音量で、はっ 後まで聞き取れる。			の小さい/大き 声が 引き取ることは こと							
	4		2		Ο						
non-ver bal commu nication	適度に相手の目を見たり、効果的に身振り手振りを使って、コミュニケーションをとることができ、会話をスムーズに進めることができる。		意識することができ 調			や身振り手振りを意 ることがまったくで い。					
	4		2		0						
Bonus point			0		0						
TOTAL SCORE							/ 20				



授業内で学習した内容をもとに教員が提示したカードに沿って、それに応じた返答をする。カードの内容はテスト当日までわからない。カードは教科書に載っているものを少し変更したもの(3ペア)と独自のカード(2ペア)を用意し、その中からランダムに3ペア用意し、その中から一つ教員が指定し、それに従って会話を進める。生徒は①~④の空欄を補充しながら会話を進める。

Bonus point はやりとりが成立し、 $a\sim d$ の発言に対して、適切に対応できた場合に与える(<u>適</u>切な返事の場合のみ点数を与える)。質問に対する答えはテストまでに生徒自身が考える。

☆授業内の練習で身振り手振りを使ってやるように指示をし、練習をさせる。

<資料6>

平成25年度 1年生 第3回スピーキングテスト実施要項(改訂版)

目的 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するため、日々の授業で身に付けた コミュニケーション能力(スピーキング能力)を確認し、活発な言語活動の一助とする。

対象 1 学年全員

科目 コミュニケーション英語 I

日程 1月27日(月)~1月31日(金)までの間で、1クラスにつき2時間分の授業で実施する。 原則、授業時間を利用する。ただし、予想以上に時間を要する場合は、昼放課や授業後を利用する。また、事前の練習として1月23日(木)~1月24日(金)のうち1時間の授業を利用し、ALT 教員と準備をする。

会場 面接教室 \rightarrow 移動教室 自習教室 \rightarrow HR教室

役割 面接官 2 名 (ALT 教員 1 名含む)

教室監督1名

各担当者で相談して決めてください。

	1月27日 (月)	1月28日 (火)	1月29日 (水)	1月30日 (木)	1月31日 (金)
1 限	1-8① 久保・伊庭	1-5① 伊庭・内藤	1-7② 内藤・野々山		1-3② 堀口・野々山
2 限		1-9① 内藤・堀口		1-6② 伊庭・久保	
3限		1-8② 久保・伊庭			1-9② 内藤・堀口
4限	1-1① 内藤・野々山	1-7① 内藤・野々山	1-4① 伊庭・堀口	1-2② 野々山・久保	
5 限		1-6① 伊庭・久保	1-1② 内藤・野々山	1-4② 伊庭・堀口	
6 限	1-3① 堀口・野々山	1-2① 久保・野々山			1-5② 伊庭・内藤
7限					

実施方法 スピーキングテスト1週間前にプリントを用いて説明をする。スピーキングテスト直前の1時間をALT との準備時間とするので、それまでにしっかりと準備をしてくるように指示をする。スピーキングテスト当日は、出席番号順に面接を行うので自分の順番が来たら、生徒は試験会場へ移動し、テストを受ける。(一人当たり2、3分)今回の評価者はALTとJETの2名である。受験者が試験を受けている間、後5名の者は廊下の椅子で静かに待機する。試験官はインタビューの内容を録音、録画し、必要であれば、後ほど担当教員らで評価する。基本的にはその場で評価をする。インタビューが終わった生徒は、教室に戻り、静かに自習する。

試験内容

[Warm-up]

- ①Tell me your name.
- ②How are you doing today?

[Show and Tell]

What is a precious thing to you?

あなたが大切にしているものについて紹介する。(1分程度で)

大切にしているものを実際に持ってきて紹介すること。(持ってくることができないものについては写真を持ってくる。)

その後, ALT が発表について質問をするので, 英語で答えること。

*質問はすべて ALT が行う。

スピーキングテスト前の1時間を準備時間として使う。

1週間前:生徒用プリントを配布し、説明を行う。教員が手本を見せたり、便利な表現などを紹介してもよい。準備時間までにしっかりと用意をしてくるよう指示。

準備時間:ALT から発表するときの例を見せてもらう。その後、小グループ(5人グループ×4)

になり発表を行う。その際、小グループメンバーの評価をし合う。(成績には反映しない)また、ALTからアドバイスをもらう。その後、原稿を直したりして、完成させる。(ALT

を交えた準備は、1時間のうち25分をあてる⇒前半:奇数 後半:偶数)

準備時間日程

	1月23日	1月24日
	(木)	(金)
1限	A1 - 1	A1 - 3
1 四	(第2学習室)	(第3学習室)
2 限	B1 - 6	
乙 PJX	(社会科教室)	
3限	A1 - 7	A1 - 9
対して	(第2学習室)	(社会科教室)
4限	B1 - 2	
4 0次	(第3学習室)	
5 限	B1 - 4	
郊の	(第2学習室)	
6 限	A1-8	B1-5
双印义	(第3学習室)	(第2学習室)
7限		

*前半: HR 教室 後半: 移動教室

ALTの教室間移動の引率は前半に当たっている教員が担当してください。

)

評価項目			評価基	· 準		
content	とても興味深い内容	興〔	未深い内容であ 内容は普遍		であ	内容が乏しい。何
	である。オリジナリ	る。	。自分なりにエ	る。平易な表	表現で	を伝えたいのか
	ティがあり、表現豊	夫	し,表現も工夫	あり, あまり)工夫	わからない内容
	かで工夫が凝らして	<u>ل</u>	てある。	が見られな	۷۱.	である。
	ある。					
	10		6	3		0
voice	適度な音量で、はっき	50	声がやや小さい	1/大きいが,	声がり	小さすぎて聞き取
	と最後まで聞き取れる	3.	聞き取ることは	けできる。	ることができない。	
	3		2		0	
non-verbal	適度に相手の目を見	た	目線や身振り手振りを意識		目線や身振り手振りを	
communica	り,効果的に身振り手	€振	することができる。		まったく意識すること	
tion	りを使って、発表する	るこ			ができない。	
	とができる。					
	3		2			0
questions	ALT からの質問に適	鱽	ALT からの質	ALT からの質問に答えよ		からの質問に全く
from ALT	に答え、相手に言いた	こしり	うとしているが,質問を勘		答えることができない。	
	ことを伝えることか	ر ر	違いしていたり	違いしていたり,言いたい		
	きる。		ことが ALT に伝わらない			
			部分がある。			
	4		2			0
total						
score						/20

SHOW AND TELL WORKSHEET NO.1

1st STEP まず日本語で自分の大切にしているものについて考えよう。

①あなたの大切なものは何ですか。
②なぜあなたにとってそれが大切なものなのですか。
③その他の情報(どこで手に入れたか,他のものと何が違うのか,特別なエピソードなど…)

CLASS () NO. () NAME (

)

SHOW AND TELL WORKSHEET NO.2

2 nd STEP	英語に直して、原	見稿を作うつ!	
完成したら,	自分で読んでみよ	う。相手に伝えるために目線や声の大きさを意識して!	
CLASS () NO. () NAME ()

SHOW AND TELL WORKSHEET NO.3

3rd STEP 友達を評価しよう!

1番	3	()	さん			
		内容					声			nor	n-verba	al comn	nunicat	ion
5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
コメ	ント													
2番	3	()	さん			
		内容					声			nor	n-verba	al comn	nunicat	ion
5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
コメ	ント													
3番	3	()	さん			
		内容					声			nor	n-verba	al comn	nunicat	ion
5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
コメ	ント													
4番	=	()	さん			
		内容					声			nor	n-verba	al comn	nunicat	ion
5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
コメ	ント				•					•				

)

CLASS () NO. () NAME (

第3回スピーキングテストについて(生徒用)

①スピーキングテストの日程は各教科担当の指示に従ってください。 基本的に2回の授業を利用します。順番は<u>名簿順</u>で行います。

1 🗆 🗎			20目		
() 目 ()時間目	() 目 ()時間目

②3学期の成績で、スピーキングテストの評価を20点分組み込みます。テスト結果は後日報告します。 評価の観点は、

①content (内容) ②voice (声) ③non-verbal communication ④ALT からの質問の4点です。 ③今回,評価はALT と JET の2名で行います。

④準備時間を利用して ALT の先生と練習をし、友人同士で評価します。一生懸命取り組むこと。その後は、友人と繰り返し練習を行い、テストに備えてください。また、それ以後テストの内容に関しての質問はいっさい受け付けません。

準備時間		
() 日()時間目
		↑この日までに必ず準備を完了させておくこと!!
		大切にしているものも持って来てください。

- ⑤テスト中、原稿を読むことはできません。また、不正行為が発覚した場合は評価しません。
- ⑥テストを受けていない者は教室で静かに自習をすること。
- ⑦試験内容と評価基準は以下のようにする。

試験内容

[Warm-up]

1) Tell me your name. 2 How are you doing today?

(Show and Tell)

What is a precious thing to you?

あなたが大切にしているものについて英語で紹介する。(1分程度で)

<u>大切にしているものを実際に持ってきて紹介すること。(持ってくることができないものについては写真を持ってくる。)</u>

その後、ALT が発表について質問をするので、英語で答えること。

スピーキングテスト前の1時間を準備時間として使う。

準備時間: ALT から発表するときの例を見せてもらう。その後、小グループ(5人グループ×4)になり発表を行う。その際、小グループメンバーの評価をし合い、ALT からアドバイスをもらう。その後、原稿を直したりして、完成させる。(ALT を交えた準備は、1時間のうち25分をあてる⇒前半:奇数後半:偶数)

評価基準

評価項目			評価基	準		
content	とても興味深い内容である。オリジナリティがあり,表現豊かでエ 夫が凝らしてある。	る。	味深い内容であ 自分なりに工夫 表現も工夫して る。	内容は普通で 平易な表現で あまり工夫を れない。	あり,	内容が乏しい。何を 伝えたいのかわか らない内容である。
	10		6	3		0
voice	適度な音量で、はっきりと		声がやや小さい/: き取ることはでき		声が小さすぎて聞き取ることができない。	
	3		2			0
non-verbal communicati on	適度に相手の目を見たり, 効果的に身振り手振りを使って,発表することができる。		目線や身振り手持ることができる。	辰 りを意識す	目線や身振り手振りをまっ たく意識することができな い。	
	3		2			0
questions from ALT	ALT からの質問に適切答え、相手に言いたいでを伝えることができる。	-	ALT からの質問 しているが,質問 いたり,言いたい に伝わらない部分	を勘違いして Nことが ALT		からの質問に全く答とができない。
	4		2			0
total score						/20

	Class(1-) N	Io.() Name()	
		criteria			
Content	Interesting and	Interesting	Ordinal	Poor	
	creative				
	10pts	6pts	3pts	0pt	
Voice	Strong and clear	A little weak	A little weak		
	3pts	3pts 2pts		0pt	
Non-verbal	Good eye contact and	Some eye contact	Some eye contact and gestures No		
communication	gestures			gestures at all	
	3pts	2pt	ts	0pt	
Questions from	Can answer properly	Can answer with	some errors	Cannot answer	
ALT		or misunderstan	or misunderstanding		
	4pts	2pt	2pts		
Total score				/20pts	

<資料7>

スピーキングテストについてのアンケート

* 実施時期: 2014年1月中旬

*対象:1年1~4組の生徒75名

- ①英語への学習意欲
- Q. 英語は好きですか。
 - 1. はい…49% 2. いいえ…51%
- Q. 英語を話せるようになりたいですか。

1. 話す…32%

- 1. はい…80% 2. いいえ…20%
- Q. 英語を勉強する上で、どの技能を勉強することが一番重要だと思いますか。
 - and the second s
 - 4. 読む…10% 5. その他…2%
- Q. 4技能の中で一番上達させたいものは何ですか。
 - 1. 話す…53% 2. 聞く…11% 3. 書く…35% 4. 読む…1%

2. 聞く…20% 3. 書く…36%

- Q. 4技能の中で一番得意なものは何ですか。
 - 1. 話す…9% 2. 聞く…14% 3. 書く…20%
 - 4. 読む…56% 5. その他…1%

②スピーキングテストについて

- Q. 第2回のスピーキングテストでは事前に評価表を提示しましたが、それによってテストのために何を準備すべきかわかった。
 - 1. はい…89% 2. いいえ…11%
- Q. スピーキングテストを受ける前には必ず評価表を提示してほしい。
 - 1. はい…89% 2. いいえ…11%
- Q. スピーキングテストを受けることによって, 英語を話すことを意識するようになった。
 - 1. はい…53% 2. いいえ…47%
- Q. スピーキングテストは英語を勉強する上でのモチベーションになった。
 - 1. はい…53% 2. いいえ…47%

<資料8>

平成25年度 1年生 第1回 ライティングテスト 実施要項(改訂版)

目的 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するため、日々の授業で身に つけた表現活動を利用して、記述形式で評価することにより、活発な言語活動の一助とする。

対象 1年生全員

科目 英語表現 I

日程 6月10~14日の間の1時間を利用し、実施する。

実施方法 英語表現 I の授業時に各教室で20分間(20点満点)の記述形式で行う。

試験内容 ①Myself (あなた自身のことについて書きなさい。)

- ②My family (あなたの家族について書きなさい。)
- ③My friend (あなたの友人について書きなさい。)

【*いずれかを選択して記述する。】

評価基準

(1) 語数(3段階評価)

段階	1 0	7	3
基準	40語以上	30~39語	2 9 語以下

(2) 内容(3段階評価)

段階	5	3	1
基準	内容が優れており,表現が	内容を理解することがで	内容をほとんど理解するこ
	豊かである。	きる。普通。	とができない。

(3) 文法(3段階評価)

段階	5	3	1
基準	文法的なミスはほとんど	文法的なミスはみられる	文法のルールを全く無視し
	みられない。	が、内容はわかる。	ている。

その他 各授業担当者が監督,採点を行う。

生徒は辞書(紙辞書,電子辞書)を持ち込むことができるが,辞書の例文をそのまま引用することは禁止とする。そのようなことがあった場合,評価しない。30語以上書くことを原則とする。

事前に生徒に対して, 評価基準を伝えておく。

テスト結果は後日報告する。

第1回ライティングテスト

<u>評価表</u> ()組()番 名前(

段階(得点)	10	7	3	結果
語数	40語以上	30~39語	29語以下	
段階(得点)	5	3	1	結果
内容	内容が優れており、表	内容を理解することがで	内容をほとんど理解す	
	現が豊かである。	きる。普通。	ることができない。	
段階(得点)	5	3	1	結果
文法	文法的なミスはほと	文法的なミスはみられる	文法のルールを全く無	
	んどみられない。	が、内容はわかる。	視している。	
•				合計

)

/20

第1回 ライティングテストについて(生徒用)

- (1) ライティングテストの日程は各教科担当の指示に従ってください。
 - 20分間の記述式テストを受けてもらいます。テスト内容は当日までわかりません。点数は20点満点でテスト結果は1学期の成績に反映されます。
- ②辞書の持ち込みは可能です。紙辞書,電子辞書のどちらでも可。ただし,辞書の例文をそのまま引用す。

ることは禁止とします。そのようなことがあった場合、評価しません。

- ③評価基準は(1)語数(2)内容(3)文法の3点です。語数については30語以上必ず書くこと。
- ④テスト結果は後日報告します。
- ⑤不正行為が発覚した場合はゼロ点とみなします。

第1回 ライティングテスト

【問題】以下の3つの中から題材をひとつ選び、英作文を書きなさい。

- ①Myself (あなた自身のことについて書きなさい。)
- ②My family (あなたの家族について書きなさい。)
- ③My friend (あなたの友人について書きなさい。)

CLASS () NO. () NAME () SCORE (/20)

<資料9>

【第1回ライティングテスト 生徒解答例】

I am Ishin figh shcool students
culb is table tennis
I don't like study English
becouse is very difficult
table tennis culb is very hard

<資料 10>

【第1回ライティングテスト 生徒解答例】

My name is $\bigcirc\bigcirc$.

I am from Aichi.

I am high school student.

High school is Ishin.

I like music.

I like sject math.

I am interesting book.

<資料 11>

平成25年度 1年生 第2回 ライティングテスト 実施要項 (改訂版)

目的 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するため、日々の授業で身に つけた表現活動を利用して、記述形式で評価することにより、活発な言語活動の一助とする。

対象 1年生全員

科目 英語表現 I

日程 10月28日(月)~11月1日(金)の間の1時間を利用し、実施する。

実施方法 英語表現 I の授業時に各教室で20分間(20点満点)の記述形式で行う。

試験内容 アメリカ人の友人に E-mail を書く。

あなたが通っている学校のこと(部活動や行事など)や,あなたが住んでいる町のことを紹介してください。その際,受動態と助動詞をそれぞれ少なくとも1回以上使うことを条件とする。

評価基準 (1) 語数(2) 内容(3) 文法の3点から評価する。

その他 各授業担当者が監督、採点を行う。

生徒は辞書(紙辞書,電子辞書)を持ち込むことができるが,辞書の例文をそのまま引用することは禁止とする。そのようなことがあった場合,評価しない。30語以上書くことを原則とする。白紙の場合は評価しない。

事前に生徒に対して,説明プリントを配り,評価基準を伝えておく。 テスト結果は後日返却する。

評価表

CLASS()NO.()NAME()

評価項目		評価基準							
	70語以上	50~6	9	30~49	20^	~29語	1 9語以下		
語数		語		語					
	10	8		6		4	2		
	内容が優れて	おり、表	内	容を理解するこ	ことが	内容をほ	そとんど理解す		
内容	現が豊かであ	iる。	で	きる。普通。		ることか	べきない。		
	5			3			1		
	文法的なミス	スはほとん	文	法的なミスはみ	りられ	文法のル	ノールをまった		
	どみられない。(冠詞や		るが、内容はわかる。			く無視し			
文法(1)	複数形などのミスレベ								
	ルが5つ程度まで)								
	2			1			0		
	指定された対	ス法事項を ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	指	定された文法事	事項を	指定され	に文法事項を		
	合計2回以上	使用し,	使	用しているが, 🏻	間違い	まったく	使用していな		
文法(2)	間違いもない	١,	がる	ある。		<i>د</i> ۱.			
			<u></u>						
	3			2			0		
TOTAL									
SCORE									
								/20	

第2回 ライティングテストについて(生徒用)

- ①ライティングテストの日程は各教科担当の指示に従ってください。 20分間の記述式テストを受けてもらいます。点数は20点満点でテスト結果は2学期の成績に反映されます。
- ②辞書の持ち込みは可能です。紙辞書、電子辞書のどちらでも可。ただし、辞書の例文をそのまま引用することは禁止とします。そのようなことがあった場合、ゼロ点とみなします。
- ③評価基準は(1)語数(2)内容(3)文法の3点です。語数については30語以上必ず書くこと。
- ④試験内容は「アメリカ人の友人に E-mail を書く」です。あなたが通っている学校のこと(部活動や行事など)や、あなたが住んでいる町のことを紹介してください。その際、受動態と助動詞をそれぞれ少なくとも1回以上使うことを条件とする。
- ⑤テスト結果は評価シートと共に後日報告します。
- ⑥不正行為が発覚した場合はゼロ点とみなします。また、白紙の場合も評価しません。
- ⑦評価基準は以下のようにする。(ただし、評価対象は本文のみである。)

評価項目				評価基準				SCORE
	70語以上	50~6	9	30~49	20^	~29語	1 9語以下	
語数		語		語				
	10	8		6		4	2	
	内容が優れて	だおり、表	内	容を理解するこ	ことが	内容をは	そとんど理解す	
内容	現が豊かであ	5る。	で	きる。普通。		ることが	べきない。	
	5			3		+	1	
	文法的なミス	スはほとん	文	法的なミスはみ	ょられ	文法のル	ノールをまった	
	どみられない	1。(冠詞や	る	が,内容はわか	る。	く無視し	ている。	
文法(1)	複数形などのミスレベ							
	ルが5つ程度まで)							
	2		1					
	指定された対	て法事項を	指定	定された文法事	₿項を	指定され	に文法事項を	
	合計2回以上	使用し,	使原	用しているが,『	当違い	まったく	使用していな	
文法(2)	間違いもない	١,	がる	ある。		い。		
	3			2			0	
TOTAL								
SCORE								
								/20

≪例≫

この例を参考にテスト当日までに考えてきてください。

ただし、この英文をそのまま引用した場合は減点になります。自分で内容を考え、工夫をこらしたものにしてください。<u>助動詞、受動態をそれぞれ1回以上使用することを忘れないこと。</u>

To: julia-r@school.us ←メールアドレスは自由です。自分で考えてください
Subject: About my school and town ← <u>題も自分で考えること</u>
Hi, Julia! ←Hi, 名前! で始めよう。
Let me introduce my school and town to you. ←「~を紹介させてください」という表現を使おう。
There are many events in my school.
For example, the entrance ceremony was held in April
and our school festival was held in September.
The athletic meeting will be held in November.
So, we can make many friends at school.
But we must not chat during class.
I live in Kyoto city. My town is famous for historic temples and shrines.
They are beautiful. I am proud of them.
Many tourists come to visit every year.
I hope you can come to Japan someday.
最後に自分の名前を書こう。→ Akari

第2回 ライティングテスト

アメリカ人の友人に E-mail を書こう。

あなたが通っている学校のこと(部活動や行事など)や、あなたが住んでいる町のことを紹介してください。<u>その際、受動態と助動詞をそれぞれ少なくとも1回以上使うことを条件とする。</u>

То:		
Subject:		
	語数	
CLASS () NO. () NAME () SC	ORE (/20)

評価表

CLASS()NO.()NAME()

評価項目		評価基準							
	70語以上	50~6	9	30~49	20^	~29語	1 9語以下		
語数		語		語					
	10	8		6		4	2		
	内容が優れて	おり、表	内	容を理解するこ	ことが	内容をほ	そとんど理解す		
内容	現が豊かであ	iる。	で	きる。普通。		ることか	べきない。		
	5			3			1		
	文法的なミス	スはほとん	文	法的なミスはみ	りられ	文法のル	ノールをまった		
	どみられない。(冠詞や		るが、内容はわかる。			く無視し			
文法(1)	複数形などのミスレベ								
	ルが5つ程度まで)								
	2			1			0		
	指定された対	ス法事項を ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	指	定された文法事	事項を	指定され	に文法事項を		
	合計2回以上	使用し,	使	用しているが, 🏻	間違い	まったく	使用していな		
文法(2)	間違いもない	١,	がる	ある。		<i>د</i> ۱.			
			<u></u>						
	3			2			0		
TOTAL									
SCORE									
								/20	

<資料 12>

【第1回ライティングテスト 生徒解答例】

My family of four.

My family is very small.

My family are all night owls.

Our dog is family.

My father's salary is adequate to support my family

My family sat around the table eat rice.

My brother is the baby of our family.

My father puts my family before everything.

My family eats a late breakfast on Sundays.

There is trouble brewing in my family.

<資料 13>

【第2回 ライティングテスト 生徒解答例】

Hi, Mike!

Let me introduse about my school and my town,.

My school is very big and my school is historic building.

A big river by my school.

Thousand of birds come to the river.

We must enter our classroom by 8:35 in the morning.

We mustn't play soccer in the classroom.

We can play soccer after school.

The school festival is held in September every year.

The school trip was held in May.

I live in Nagoya.

It is famous for Nagoya Port. Misokatu is eaten by many people.

I like misokatu very much.

Minato festival is held in July every year.

Minato festival was made them happy.

I like my town. Thank you.

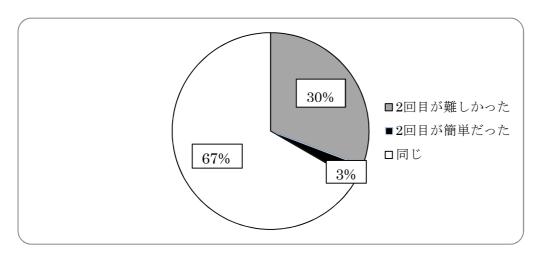
0000

<資料 14>

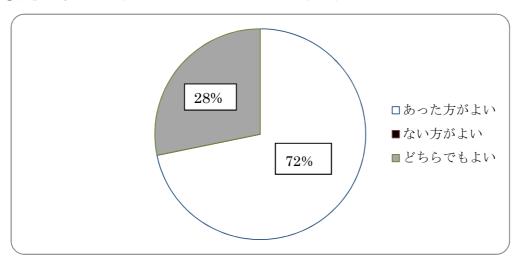
【ライティングテスト アンケート結果のグラフ】 *実施時期:2013年12月6日

*実施クラス:1年2組の生徒40名

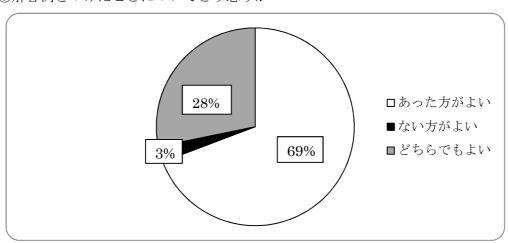
①2回のテストの難易度について、どちらが難しかったか。



②評価の観点と基準を提示したことについてどう思うか



③解答例をつけたことについてどう思うか



<資料 15>

平成25年度 1年生 第3回 ライティングテスト 実施要項

目的 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するため、日々の 授業で身につけた表現活動を利用して、記述形式で評価することにより、活発な 言語活動の一助とする。

対象 1年生全員

科目 英語表現 I

日程 2月3日(月)~2月7日(金)の間の1時間を利用し、実施する。

実施方法 英語表現 I の授業時に各教室で20分間(20点満点)の記述形式で行う。

試験内容 アメリカ人の友人に E-mail を書く。

①高校卒業後の進路は何か,②将来の夢について相手に伝わりやすく(段落構成を用いて)書く。

評価基準 (1) 語数(2) 内容(3) 構成(4) 文法の4点から評価する。

その他 各授業担当者が監督,採点を行う。同じ答案をコピーしたものに, ALT も 採点を行い, コメントをつける。

> 生徒は辞書(紙辞書,電子辞書)を持ち込むことができるが,辞書の例文をそのまま引用することは禁止とする。そのようなことがあった場合,評価しない。3 0語以上書くことを原則とする。白紙の場合は評価しない。

事前に生徒に対して,説明プリントを配り,評価基準を伝えておく。 テスト結果は後日返却する。 評価表

CLASS()NO.()NAME(

評価項目				評価基準				SCORE
語数	70語以上	語	9	語	20 語	~29		
	10	8 7±10	ф	<u>6</u>	- L	4 中容を	<u>2</u> エレノド田	
内容	内容が優れ 表現が豊か			容を理解する できる。普通			ほとんど理 ことができ	
	6			4			0	
構成	段落構成がとしている。		上い	つの段落に 2 の内容が混在 る箇所が 1 こ られる。	して	段落構 視してい	成を全く無 ハる。	
	2			1				
文法	文法的なる とんどみら (冠詞や初 どのミスし 5つ程度ま	れない。 复数形な レベルが		法的なミスは るが,内容は 。			ルールをま 無視してい	
	2			1			0	
TOTAL SCORE								

)

第3回 ライティングテストについて(生徒用)

- ①ライティングテストの日程は各教科担当の指示に従ってください。 20分間の記述式テストを受けてもらいます。点数は20点満点でテスト結果は2学期の 成績に反映されます。
- ②辞書の持ち込みは可能です。紙辞書,電子辞書のどちらでも可。ただし,辞書の例文をそのまま引用することは禁止とします。そのようなことがあった場合,ゼロ点とみなします。
- ③評価基準は(1)語数(2)内容(3)構成(4)文法の4点です。 語数については30語以上必ず書くこと。
- ④試験内容は「アメリカ人の友人に E-mail を書く」です。①高校卒業後の進路は何か、② 将来の夢について、<u>両方とも</u>相手に伝わりやすく書いてください。テスト結果は評価シートと共に後日報告します。
- ⑥不正行為が発覚した場合はゼロ点とみなします。また、白紙の場合も評価しません。
- ⑦評価基準は以下のようにする。(ただし、評価対象は本文のみである。)
- ⑧今回はネイティブスピーカー(ALT)にも評価してもらいます。

)	1 ノスヒーカー(ALT)にも評価してもられます。									
評価項目				評価基準				SCORE			
	7 0 語以	50~6	9	30~49	20	\sim 29	1 9語以下				
語数	上	語		語	語						
	10	8		6		4	2				
	内容が優れ	ており,	内	容を理解する	こと	内容を	ほとんど理				
	表現が豊か	である。	が	できる。普通	0	解する	ことができ				
内容						ない。					
	6			4			0				
	段落構成力	がきちん	—	つの段落に 2	つ以	段落構	成を全く無				
	としていてわかり		上の内容が混在して			視してい					
 構成	やすい。			いる箇所が少し見受							
16/50				られる。							
	2		1								
	文法的なる	ミスはほ	文	法的なミスに	はみら	文法の	ルールをま				
	とんどみら	れない。	れ	るが,内容に	はわか	ったく	無視してい				
	(冠詞や剤	复数形な	る。			る。					
文法	どのミスし	ノベルが									
	5つ程度ま	で)									
	2			1			0				
TOTAL								/20			
SCORE											

≪例≫

この例を参考にテスト当日までに考えてきてください。

ただし、この英文をそのまま引用した場合は減点になります。自分で内容を考え、工夫をこらしたものにしてください。

To: <u>julia-r@school.us</u> ← <u>メールアドレスは自由です。自分で考えてください</u>	
Subject: About my future ← <u>題も自分で考えること</u>	
Hi, Julia! ←Hi, 名前! で始めよう。	
①Let me tell you what I want to do in the future.	
②After graduating from high school, I want to go to college to study science.	
I want to learn chemistry in college. I will join the soccer club	
and make a lot of friends there	
③My dream is to be a researcher of a drug company.	
Many people die of cancer these days. I want to make a new drug	
to help a lot of sick people all over the world.	
最後に自分の名前を書こう。→ Aka:	ri

- ①から③は段落番号です。1つの段落には1つの言いたいことを書きます。 段落番号は、各段落の最初に必ず書いてください。灰色の部分を覚えておくと、きちんとした段落構成で書くことができます。
- ②高校卒業後にやりたいことは・・・
- ③将来の夢としてやりたいことは・・・

第3回 ライティングテスト

アメリカ人の友人に E-mail を書こう。①高校卒業後の進路は何か、②将来の夢について 2 つとも、相手に伝わりやすく書いてください。

To:	
Subject:	
	== #4
	語数
AITに図占してもころため、夕前はロニッ字で書ノとし	
ALT に採点してもらうため, <u>名前はローマ字で書くこと</u>	
CLASS() NO.() NAME() SCORE (/20)

評価表

CLASS()NO.()NAME(

評価項目				評価基準				SCORE
= \/_	70語以		9	30~49		~29	19語以下	
語数	上	語		語	語			
	10	8		6		4	2	
	内容が優れ			容を理解する			ほとんど理	
内容	表現が豊か	である。	が	できる。普通	o		ことができ	
1 12						ない。		
	6			4			0	
	段落構成力	がきちん	<u> </u>	つの段落に 2	つ以	段落構	成を全く無	
	としていてわかり			の内容が混在	して	視して	ハる。	
構成	やすい。			る箇所が少し				
113724				られる。				
	2			1			0	
	文法的なる	ミスはほ	文	法的なミスは	みら	文法の	ルールをま	
	とんどみら	れない。	れ	るが,内容は	わか	ったく	無視してい	
>-	(冠詞や剤	复数形な	る	o		る。		
文法	どのミスし	ノベルが						
	5つ程度ま	で)						
	2			1			0	
TOTAL								
SCORE								
								/20

Evaluation sheet

CLASS()NO.()NAME(

points of evaluation		evaluation standards							
words	70 words or more	50~ 69 words		30~ 20° 49 29 words word		words			
	10	8		6		4	2		
content	excel	lent		average)		poor		
	6			4			0		
paragraph	excellent			average		l	poor		
construction	2			 1		O			
	almost p	almost perfect		There are		not intelligible			
grammatical			some errors						
errors			k	but intelligible					
	2			1			0		
TOTAL SCORE								/	
comments									

Questionnaire

In your opinion, what factor should be emphasized when you evaluate the content of the test? Please rank the factors below (a - d). If other factors should be emphasized, please write them down.

a. originality b. rich in expressiveness c. easy to understand d. coherency e. accuracy in grammatical points

1	2	3	4	5
(most				(least
important)				important)

Please write down other factors, if any.	
()

ライティングテストの評価における、ALT の派遣について

1. 日程

- 2月19日(水) (次の3人の先生共通)
- 1. Daniel Linsenbarth 12:00 \sim 17:00
- 2. Jonathan Gantt $12:00\sim17:00$
- 3. Matthew Peterson $12:00\sim17:00$
- 2月21日(金) (Matthew Peterson 先生は4時間)
- 1. Daniel Linsenbarth 12:00 \sim 17:00
- 2. Jonathan Gantt $12:00\sim17:00$
- 3. Matthew Peterson 12:00 \sim 16:00

2. やり方

- ①生徒の書いた作文を『Evaluation sheet』で評価していただきます。
- ②Total score の下に、その作文に対しての 2 行程度のコメントを つけていただければと思います。

☆評価クラスの分担

- 1. Daniel Linsenbarth 1-4, 1-5, 1-6, 1-9
- 2. Jonathan Gantt 1-1, 1-2, 1-3, 1-9
- 3. Matthew Peterson 1-7, 1-8, 1-9

ALT 依頼の目的は①評価表の内容と構成の項目において、JTE と ALT の採点にどのような差が見られるかの確認、②生徒にコメントをつけてもらうことで、英語学習に対するモチベーションの向上を図ることの2つです。

高等学校理科における調査研究

-2年理系「物理」における調査研究(1年目)-

愛知県立一宮南高等学校 教諭 中島 美幸

教諭 辻 太一朗

教諭 柳沢 雄大

1 はじめに

本校は、愛知県北西部にある一学年8クラス (320 名) の全日制普通科高校である。生徒のほぼ全員が大学進学を希望し、進路実現を果たしている。第2学年より文理のコースに分かれるが、うち約半数が理系を選んでおり、さらにその9割が物理と生物との選択で物理を履修している。真面目な生徒が多く、彼らの潜在的な能力は感じるが、主体的に課題を見つけて学習するようなタイプの比率は少ないと感じている。

今年度 10 月より本調査研究を開始したが、パフォーマンス課題やルーブリックについて本校教員がよく知らないこともあり、愛知教育大学の平野俊英准教授や総合教育センターの研究指導主事の先生方の指導を受けながら進めている。この研究指定が生徒の学習意識向上につながる好機と捉えて取り組んでおり、今年度は2年理系「物理」選択者を対象として、本校に見合った評価基準や評価手法のあり方について検討することを中心に研究を行っている。

2 研究の目的

今年度,2年理系「物理」で多様な評価活動を実現するための研究方針として,高校生が理科の学習において身に付けるべき資質や能力のうち,下の①から⑤の育成を掲げたうえで,到達目標を明確にしたルーブリックを作成し,適切な課題を設定して評価を行うこととする。特に,生徒自身の主体性が発揮される場面である観察・実験や計算シミュレーション,調べ活動等におけるパフォーマンス評価や,ルーブリックでのレベル設定の要因となる「関心・意欲・態度」,「思考・判断・表現」,「観察・実験の技能」での評価法の研究開発に重点を置いている。

- ① 観察や実験などの結果を整理・考察するとともに、既有の科学の基本的な概念を用いて自らの考えを導き説明する力
- ② 見通しをもって観察・実験などを適切な操作・方法で主体的に行う力
- ③ 課題解決に必要な情報を選択し、科学的な見方や考え方を構築する力
- ④ 課題解決のための観察・実験の計画、方法、結果などをグループで討論したり、さまざまな考え方をまとめたりする力
- ⑤ 研究発表や質疑応答において、まとめた内容や自分の考えを適切に表現する力

3 研究の方法

まずは、試行に位置づけた2単元の教育実践の結果分析から、原案として用意したルーブリックの 内容妥当性や評価の信頼性について、校内の教職員間や他の関係者と協議しつつ検討して、研究開発 への理解を深めていくとともに、本校の理系「物理」の全単元や、理科の他科目へ汎用的な使用が可 能となるルーブリックの基本枠組みを構築するものとした。今年度行った3つのステップ毎に概要を 以下に示す。

(1) 「実験 単振り子の周期の測定」(平成 26 年 1 月に実践)

【観察・実験の技能】として「見通しをもって主体的に、実験を適切な操作で行っているか」、「実験結果を表やグラフで整理するとともに、既有の科学概念を用いて自らの考えを導いているか」という点に着目したパフォーマンス目標を掲げた。また、【関心・意欲・態度】に関しては生徒に反省や感想を記入させ、見通しや考察場面での取り組み具合を評価した。これらの授業用ルーブリックを事前に作成して評価に用いた。実践後に実施した協議では、設定した評価基準の内容妥当性や、授業での指導展開と評価との整合性について意見交換を行い、次の理科ルーブリック評価案の作成や、授業用ルーブリックとその評価手法の設計に生かした。(次節の研究の実際では、この実践について取り上げて、紹介する。)

(2) 「一宮南高校・理科 ルーブリック評価案」の作成

滋賀県の私立立命館守山高等学校への訪問での調査内容である「理科授業でのルーブリックに基づく生徒の評価活動」を生かし、本校の生徒の学習や、教職員の指導の実態に見合った、理科全科目向けのルーブリック(一般的ルーブリック)を原案として試作した。観察・実験など生徒の活動場面での使用を前提としたため、理科の評価の観点のうち【関心・意欲・態度】【思考・判断・表現】【観察・実験の技能】の3つを網羅した、「仮説の設定」「実験計画」「実験・観察・調査」「データ処理・考察」「調べ学習」「発表」といった場面ごとに3段階のレベルを設定するものを作った。各項目の内容やレベルの設定に関する検証は、今後の実践・協議において行い、正式に定めるものとしたい。現在【関心・意欲・態度】については、自己評価の観点での基準に直す方向で検討中である。

(3) 「課題解決 ケプラーの第3法則等を用いて天体の質量を求める」(平成26年3月に実践)

提供された科学情報から課題解決に必要なものを選択させた上で、関数電卓を適切に使用できているか、科学的な知識理解に基づいた思考力を発揮しているか、他者に自分の考えを的確に表現しているかという点に着目した、パフォーマンス目標を掲げた。理科ルーブリック評価案を活用して設けた授業用ルーブリックを活動前に生徒に示しておくことで、彼らにすべきことを明確に伝え、授業の終末に取り組み状況について自己評価をさせる。また、生徒による他者評価の実施など、その他の評価手法の可能性についても併せて検討を行う。

4 研究の実際

(1) 学習指導案「実験 単振り子の周期の測定」

1	教科・科目	理科・物理
2	単元名	第1編 力と運動 第4章 円運動と万有引力

3 単元の目標

円運動や単振動といった周期的な運動について,運動方程式や慣性力の考え方を用いて理解する ことができる。また,ケプラーの法則を理解し,万有引力による惑星の公転運動について考えるこ とができる。

4 単元の指導計画(全15時間)

配当時間	指導内容	
1次(6時間)	・等速円運動の加速度,向心力(2時間)	
	• 慣性力,遠心力(2時間)	
	・小単元のまとめ(2時間)	

配当時間	指導內容		
2次(5時間)	・単振動の変位,速度,加速度(1時間)		
	・ばね振り子(1時間)		
	単振り子(1時間)		
※本時1/2	・単振り子の周期の測定【生徒実験】(2時間) 実験プリント【資料1・2】		
3次(4時間)	・ケプラーの法則, 万有引力 (1時間)		
	・万有引力の位置エネルギー(1時間)		
	・小単元のまとめ(2時間)		

5 本時の展開

	学習活動(生徒)	指導上の留意点(教員)	評価の観点
導	○実験の説明を聞く	・事前指導で誤差,有効数字につい	【観察・実験の技
入	単振り子が 10 往復する時間	て説明しておく。	能】
	を測定し, その値を 10 で割っ	・時間短縮のため、測定する糸の長	
	て周期の測定をする。	さの位置に印をつけておく。	
	同じ測定を3回行い, 平均を	・変化させる条件以外は固定するこ	
	とる。	とを特に注意させる。	
展	○実験1,2	・時間短縮のため、各班に測定すべ	【観察・実験の技
開	・振幅を変化させる	き条件を割り振り、板書させる。	能】
	・おもりの質量を変化させる	・変化させる条件以外は、こちらか	
		ら指定する。	
	○実験 3	・実験3は、初期条件を生徒に決め	
	・振り子の長さを変化させる	させる。	
		・全班に全ての測定を取り組ませ	
	○グラフの作成	る。	
	・測定値をプロットし、予想さ	定値をプロットし、予想さ・グラフの軸の数値を、各自で設定	
	せる理論曲線を描く	させる。	
		・前回学習した内容から、理論曲線	
		の形を予想するよう促す。	
ま	○感想・反省・疑問をまとめる	・測定方法や有効数字、誤差につい	【関心・意欲・態
ح		て気づいたこと等を反省として	度】
め		記入させる。	

6 留意事項

- ・本時の前に、単振り子についての理論的な学習を終えておく。
- ・平素の授業の中で、実験に関する基礎知識(有効数字、誤差など)について説明しておく。
- ・既習の単振り子の理論と関連付けてグラフを作成するよう促す。
- ・反省について、書くべきポイントを教師から提示する。

(2) 授業の実際とその評価について

ア 指導の流れと評価方法

本時の実験が生徒にとって今年度最初の物理実験であったため、測定の方法や実験データの処理については事前指導を行った。特に、条件制御の必要な実験であるため、変化させる条件以外の条件を固定して実験を行うことに注意させた。実験1、2については時間短縮の目的で、あらかじめ各実験班の固定させる初期条件や変化させる条件の変化量を指定して行わせたが、実験3については生徒自身に班での初期条件を決めさせた。この意図は、既習事項の知識や実験1、2での経験を踏まえて、生徒が最適な初期条件を考え、設定する能力を見ようとするものである。変化量については、グラフがルート曲線に見えやすいよう指定した。なお、初期条件の最適な設定までは今回、評価項目にはしなかったが、実験・観察の技能をここまで評価することも考えられる。評価項目とする場合には、その条件を設定した「理由」を書かせることが望ましく、その記載内容で生徒の意識レベルの表れを判断することによって評価はしやすくなるであろう。

ルーブリックを用いた生徒の評価には、授業者による評価、授業者以外の教員による評価、生徒自身による評価、生徒自身による評価、生徒同士による評価などがある。今回は教師による他者評価と生徒自身による自己評価の実施を志向したものの、後者については事前準備にもかかわらず実際には行わなかった。その理由は、生徒が高等学校以降で展開される理論から眺めて行うような実験活動や探究的課題に取り組むことに慣れておらず、演繹的な思考を働かせつつ活動へ取り組むとともに自身の活動状況について妥当な自己評価を下すところまで主体的に進められないような状況下では、具体的に技能や思考・判断・表現に関する生徒の無意識や誤りを指摘しつつ教師が取り扱いを指導する場面が不可欠なため、本来意図した自己評価活動の導入に相応しい授業展開が行えないと最終的に判断したためである。一方で、前者については、回収した実験プリントにおける記述内容を授業用ルーブリックと照らし合わせることで評価することとした。本時の授業では、校内教職員の他にティーチング・アシスタントとして大学院生2人にも生徒観察をしていただいたり、ビデオカメラで定点から授業中の教師や生徒の言動の様子を撮影したりしたが、これらは主に授業での評価観点・内容の設定や、高等学校の理科指導観について参加者間で見解の擦り合わせを行うための協議で生かすこととなり、実際に生徒の評価で利用することには至っていない。なお、本時の次の時間では、生徒達は測定したデータをさらにグループや全体で解析することで、単振り子の周期が振り子の長さの平方根に比例することを確かめた。

イ 関心・意欲・態度の評価例

関心・意欲・態度については、実験プリントの最後に用意しておいた生徒の反省・感想・疑問欄での記入をもとに評価を行った。以下では具体的な生徒の記入例をいくつか示し、それに対してどのような点に注目し評価を行ったかについて記載する。

【資料1】の生徒は、振幅を測定する際にどこを基準にするのかという点に着目し、疑問を提示している。実際には重心の位置で測定すべきであるが、そのことに気づくことができなくても、測定方法について深く考えている様子が見られる点を評価した。

【資料2】の生徒は、誤差を生じる要因について言及している。空気抵抗などの影響を受けるので、理論的に予想される値からずれるはずと考え、実験値が理論的な予想からずれていないことに疑問を提示している。これ

【資料1】生徒記入例(評価3)

振幅の基準を糸の先端にしてよいの か困った。

【資料2】生徒記入例(評価3)

疑問点は、他にも力がはたらいている ような気がするのに、実験の結果があ まり変わらないところです。 らは実際に誤差を生じる要因となるものの、有意な誤差 を生じさせるには至らないという点に気づくことができ るとより良かったが、それでも、実験と理論とを比較し そのずれが生じる原因に注目している点を評価した。

【資料3】の生徒は、誤差が生じる原因について言及している。実験では必ず誤差が生じるので、その原因を考えながら測定を行うことで、誤差を小さくするよう工夫せねばならない。ここでは、誤差について自分なりの考えを述べている点を評価した。

【資料4】の生徒は、有効数字に対する疑問を提示しているが、桁数の大きさが誤差の小ささを意味していることが理解できていない。提示された疑問が有効数字に関する理解の不十分さによるものであることがうかがえるため、ここでは評価を2とした。

【資料 5 】の生徒は、実験 3 の初期条件の設定の失敗について反省を述べている。しかし、初期条件の設定については、振幅を大きくしすぎると測定できなくなることを実験の事前指導において説明しているので、その段階で理解すべきことである。自分の失敗を踏まえた反省を書いているが、容易に改善できたはずであると考え、ここでも評価を 2 とした。

【資料6】と【資料7】は、1の評価をつけた生徒の 記入例である。【資料6】の生徒は、誤差を減らすための 努力の内容を具体的に示していないため、評価を1とし

【資料3】生徒記入例(評価3)

誤差はおもりを離した時に力を加えてしまうことや、糸の長さを変えたときの扱いやすさの違いから生じると思います。

【資料4】生徒記入例(評価2)

有効数字はみんな4桁だったけど私 たちは3桁でやりました。何桁ぐらい であれば誤差が少ないのでしょうか。

【資料5】生徒記入例(評価2)

実験3の振幅を5.0 cm にしたら、振り子の長さが5.0 cm の時の測定がきつかったです。もっと初めに考えておけば良かったです。

【資料6】生徒記入例(評価1)

誤差を減らそうと努力した。

【資料7】生徒記入例(評価1)

おもりの質量を重くしてしまうと速 く動いてしまって測定しづらいと思 ったので、おもりの重さを軽くして測 定した。

た。また、【資料 7】の生徒については、おもりの質量が速さと関係していると考えているが、それはエネルギー保存則より間違っている。このことから、現象の理解が不十分であると考え、ここでも評価を 1 とした。

ウ 観察・実験の技能の評価

授業用ルーブリックでは、「測定・作表の正確さ」「単位・有効数字の取り扱い」「グラフ」の3つの評価項目があったが、本時の授業展開の中で全ては実際に確認できず、生徒の多様性について評価できた事項は「グラフ」による評価のみに留まった。「測定・作表の正確さ」については、各グループとも概ね評価2相当であった。「単位・有効数字の取り扱い」については、グループでの表の記入状況や全体発表(板書の記入)状況から、有効数字をそろえていた一部のグループを除き、どの生徒も大きな差が見られず評価2と1の境界付近にあるものと考えられた。「グラフ」については教師の指導展開の影響もあって、授業用ルーブリックの評価3レベルのように「電卓を用いて公式から理論値を計算して求めた理論曲線と、近似曲線とを比較する」ことを実践する生徒はそもそも出なかった。そこで、評価2での近似曲線の取り扱いに関して荷重をかけて、「原点を通るルート曲線が概ねなめらかに描けている」生徒、「概ねなめらかなルート曲線であるが、原点を通らないグラフを描いている」生徒、「折れ線や直線などを描いている、もしくはプロットのみ描いている」生徒を分類するような形で、生徒の達成レベルの評価を行った。

(3) ルーブリック

ア 授業用ルーブリック

	3(十分満足)	2(概ね満足)	1 (努力を要する)
	測定方法や誤差処理, 有	実験についての反省を書	実験を行った感想を書い
	効数字の処理について気	いているが,実験操作に関	ているが, 実験についての
	をつけたことを,反省として	する具体的な内容が添え	反省を書いていない。
関心・意欲・態度	書いている。	られていない。	
	既習事項だけでは分から	既習事項で結論を導き出	実験についての疑問が提
	ない,この実験における本	せる疑問を提示している。	示されていない。
	質的な疑問点を提示して		
	いる。		
	正確な測定値を表に記入	概ね正確に実験に取り組	測定値を表に記入している
	しており, かつ他の班との	み, 測定値を表に記入して	が, 正しい測定ができてい
	比較ができている。	いる。	ない。
	単位や有効数字について	単位や有効数字について	単位や有効数字について
知察 実験の社会	意識しており、正確に取り	意識しているが, 取扱いに	意識していないか, 取扱い
観察・実験の技能	扱っている。	一部誤りがある。	に重大な誤りがある。
	グラフに測定値のプロットと	グラフに自分の測定値の	グラフに測定値の点のみを
	近似曲線を描き、かつ計算	点を描き、かつ近似曲線を	描いている。または,折れ
	より理論曲線を求めて、比	描いているが, 理論的な裏	線などで間違った近似曲
	較検討している。	付けはない。	線を描いている。

【関心・意欲・態度】では、評価対象 36 人中、評価 3 をつけた生徒が 3 人、評価 2 をつけた生徒が 11 人、評価 1 をつけた生徒が 22 人であった。評価 3 が少なく、評価 1 が多くなっているが、その原因は 2 つ考えられる。 1 つは、初めての実験であり、生徒の科学的な思考力や表現力が十分でなかったことである。もう 1 つは、授業中にポイントとして「測定方法や有効数字、誤差の取り扱いについて気をつけたこと」を記入するように指示はしたものの、実験プリントの反省・感想・疑問の欄には何も書いてなく、生徒が自由に記入できる形式であったことである。その結果、こちらの意図と違った内容を記入し、評価 1 がついた生徒が多くいたように思われる。授業での様子を評価するのであればプリントにも、「測定するときに気をつけたことは何ですか」といった問いかけの形で記入をさせた方が、生徒も書きやすく、教員も評価しやすいと思われる。

【観察・実験の技能】では、評価対象 36 人中、評価 3 をつけた生徒が 21 人、評価 2 をつけた生徒が 11 人、評価 1 をつけた生徒が 4 人であった。ほとんどの生徒がルート曲線を描いていることから、グラフを作成する段階では学習した理論式と実験とを結びつけて考えている生徒が多いことが分かる。評価 2 となった生徒は、ルート曲線になることは理解しているが、グラフの作成の基本的なきまりを理解していないと判断できる。

イ 一宮南高校・理科 ルーブリック評価案

先進校等の例を参考に、本校版のルーブリック案(一覧表)を作成した。あくまで試案であり、今後、様々な意見をいただき、改定していくためのたたき台である。実際に用いる場合には、個々の実験・観察等のテーマに応じて、 適宜「具体的」に変更して活用し、併せて、一覧表へのフィードバックを行って行きたい。

達成度評価項目	観点	評価以前の段階	レベル①
【仮説の設定】	関心・意欲・態度	自己評価として検討中	
課題に対する答えの設定, 実験計画の仮説を設定する	思考·判断	仮説設定をすることができない	仮説を示しているが、たしかな根拠に 基づいていない
【実験計画】	関心・意欲・態度	自己評価として検討中	
実験(または観察・調査)の 目的を理解し、適切な実験計 画を立てる	思考・判断	実験の目的を理解していない	実験の目的を理解しているが、妥当な 実験計画を立てることができない
	関心・意欲・態度	自己評価として検討中	
【実験・観察・調査】 計画に基づき, 適切な実験や	思考・判断	実験計画に基づいた実験を行うことができない	おおむね計画に基づいて実験を行っ たが、結果を得ることができない
調査活動を行う	技能	実験操作を正しく行うことができず, 結果が出ない	実験操作についてはおおむね理解しているが、誤った操作をすることがある
	関心・意欲・態度	自己評価として検討中	
【データ処理・考察】 実験や調査で得られた結果を 数値化するなどして、科学的	思考·判断	実験・調査で得た結果を説明することができない	得られた結果を説明してはいるが、論 理拠が不十分である
な証拠を用いて説明する	技能	グラフや表が作成できない	データ処理を行い,結果をまとめるこ とができるが,特に工夫はない
【調べ学習】	関心・意欲・態度	自己評価として検討中	
課題に対して,文献等の情報を活用して調べる	思考・判断	解答を得ることができない	自分なりの解答を得ることができた
【発 表】 構成や方法について工夫して 発表・説明する	表現	発表のためのまとめをすることが できない	発表のためにグループ内で話し合う ことができるが、まとめかたの工夫を することができない

レベル② 標準目標	レベル③	客観的評価の 資料
		アンケート等
たしかな既有知識を根拠とし,仮説設定を することができる	仮説設定の根拠や理由を正しく説明している	実験計画書 研究報告
		アンケート等
実験の目的を理解し、妥当な実験計画を立てることができる。	実験の目的を理解し、妥当な実験計画を立てる ことができる。また、この実験では明らかにできな いことについてまで言及されている	実験計画書
		アンケート等
実験計画に基づいて実験を行い, 結果を 得ることができる	各手順における操作とその目的, 仮説と実験結果を意識しながら計画通りに実験を行い, 結果を得ることができる	レポート等
おおむね適切な操作で実験を行うことができる	実験器具等の特性と使用目的を理解した上で, 正確な操作ができる	レポート等
		アンケート等
適切にデータ処理を行い,得られた結果を,既有知識を根拠として正しく説明できる	得られた結果を,既有知識に加え,出所の明確な情報根拠をもって正しく説明することができる	レポート, プレゼン など
表やグラフを用いて,分かりやすく結果をま とめることができる	結果と理論を明確に対応させ,差異等について も論理的に示している。	レポート, プレゼン など
		アンケート等
説得力のある解答が得られた	問題点や未解決の問題についても言及できてい る	レポート等
話し合いに基づいて発表内容をわかりや すくまとめ、クラス等で発表することができる	話し合いに基づいて発表内容を分かりやすくまとめ、パソコンのプレゼンテーションソフト等を使って伝わりやすいよう工夫した発表ができる	プレゼンなど

(4) 学習指導案「課題解決 ケプラーの第3法則等を用いて天体の質量を求める」

1	教科•科目	理科・物理
2	単元名	第1編 力と運動 第4章 円運動と万有引力

3 単元の目標

円運動や単振動といった周期的な運動について,運動方程式や慣性力の考え方を用いて理解することができる。また,ケプラーの法則を理解し,万有引力による惑星の公転運動について考えることができる。

4 単元の指導計画(全15時間)

配当時間	指導内容		
1次(6時間)	・等速円運動の加速度,向心力(2時間)		
	・慣性力,遠心力(2時間)		
	・小単元のまとめ(2時間)		
2次(5時間)	・単振動の変位,速度,加速度(1時間)		
	・ばね振り子 (1時間)		
	・単振り子(1時間)		
	・単振り子の周期の測定【生徒実験】(2時間)		
3次(4時間)	・ケプラーの法則,万有引力(1時間)		
	・万有引力の位置エネルギー(1時間)		
※本時2/2	・小単元のまとめ(2時間)		

5 本時の展開

	学習活動(生徒)	指導上の留意点(教員)	評価の観点
導	○ルーブリックの確認をする。	・本時の課題の取り組みを提示され	
入		たルーブリックに基づいて評価す	
		ることを伝える。	
	○小テスト	・はじめに使い方を復習させてから	【観察・実験の技
	・関数電卓を用いて演算する。	小テストを行う。	能】
展	○前時のプリントのステップ②	・自分で解き方を選択させ、導出さ	【知識・理解】
開	に個人で取り組む。	せる。求めやすい値から取り組ま	
	個人シートを使う。	せ、複数の解法を考えさせる。	
	・(4) 火星と太陽の距離	ステップ①での解き方を見直させ	
	(5)月の質量	て,適切な解き方を考えさせる。	
	(6)太陽の質量		
	3 つの値を①~⑤の解き方か		
	ら選択して導出する。	・聞く際は疑問点を明らかにして質	
	〇ステップ②で、自分で導出で	問するように注意させる。	【思考・判断・表
	きなかった値を友人に教えて	・教える際は、理論の展開から教え	現】
	もらう。または教える。	るように注意させる。	
	友人シートを使う。	教えてもらったときの良かった点	
	○友人シートをまとめる。	について具体的に記述させる。	

ま	○太陽の質量が求められている	・机間指導で太陽の質量を導出でき
٤	生徒が発表する。発表できる	た生徒を確認しておく。
め	生徒がいなければ, ヒントを	・導出できた生徒がいなければ,ス
	聞いて導出する。	テップ①の(1)②の解き方がヒン
	○本時の授業の感想・反省をま	トであることを伝える。
	とめる。	・感想・反省、個人シート、友人シ
	○ワークシート、個人シート、	ートに記入されているか確認する。
	友人シートをファイリングす	・ファイルを回収する。
	る。	

(5) ルーブリック

達成度評価項目	観点	到達レベル③ (十分満足)	到達レベル② (概ね満足) 標準目標	到達レベル① (努力を要する)	学習困難にある状態	評価の 資料
【実験・観察・調査】 使用する機器を適切 に操作できる。	観察・実験の技能	関数電卓の持つ 機能を駆使して、 迅速・正確に計 算ができる	関数電卓を適 切に使って、正 確に計算ができ る	関数電卓を使っ て計算はできる が、誤りがある	関数電卓を 使って計算 できない	レポート (自己 評価票)
【データ処理・考察】 示されたデータと学 習した理論や公式 等を用いて考察する ことができる。	思考·判断· 表現	理論を理解し、示されたデータから適切な公式を用いて値を複数の方法で導出できる	公式を理解し、 示されたデータ から適切な公式 を用いて、値を 導出することが できる	公式の理解が不確かであるが、示されたデータから 公式を用いて値の導出を試みている	公式が理解 できておら ず、示された データから求 めたい値を 導出できな い	レポート (自己 評価票)
【記述表現】 自分の考えを記述し て表現することがで きる。	観察・実験 の技能 思考・判断・ 表現	確に表現して周	自分の解法を 的確に表現し、 周りの人に伝え ることができる	自分の解法を周 りの人に伝えよう と試みるが、その 詳細を表現でき ていない	自分の考え を表現するこ とができない	レポート (自己 評価票)

今回のパフォーマンス課題で評価できる項目を設定し、各項目に対して到達レベルの内容を考えた。 できる限り、あいまいな表現をなくし、生徒が見ても明確に分かり、教員が客観的に評価できるように 工夫した。

5 実践のまとめ

(1) 実践の成果

今回、「実験 単振り子の周期の測定」の実践を通して、ルーブリックを用いた評価を試みることができた。どのようなパフォーマンス課題を設定し、どうルーブリックを作るのかからのスタートであったが、指導を受けつつ進め、初めてのルーブリックを作成した。実践を終えルーブリックの妥当性を検証するにつれ、生徒の実態を見極めてルーブリックを作成しなければならないこととその難しさを実感した。また、先進校訪問での調査内容を生かし、本校版の一般的ルーブリック評価案を作ることができた。今、「ケプラーの第3法則等を用いて天体の質量を求める」を実施するにあたり、授業プリント作りの段階から評価項目を考え、ルーブリックも実際に評価をする場面を考えながら何度も練り直している。4カ月前とは全く違った意識でこの研究に臨んでいる。初めてのルーブリック評価と一般的ルーブリック作成とともに、この意識の変化が今年度の成果と言える。

(2) 今後の課題

今回は、4(2)アで述べた通り、実験プリントへの記入内容を教員が評価する形のみとなった。実験のように生徒が主体的に活動する授業では、できれば生徒の活動そのものも評価するようにしたい。例えば、「結果を予想しながら実験を進めることができたか」「実験操作を適切に行うことができたか」など、レポートだけでは評価が難しいところにも、評価すべき観点があるのではと考える。しかし実際には、これらの点について1名の教員で全員を評価することは難しい。そこで、自己評価が重要になってくると思う。今回は、生徒がまだ自己評価を行える段階ではないという判断で取り組まなかったが、可能であれば生徒にルーブリックを提示し、生徒がそれを意識しながら実験を行い、実験が終わったところで振り返って自己評価をすることで、上記の点もある程度は評価できると考えられる(3月実践予定)。その場合、どのように妥当性をもたせて自己評価を行っていくかが一つの課題となる。

教員による他者評価についても課題が残された。一つは、ルーブリックによる評価の線引きの難しさである。実際に評価をしてみると、評価3と評価2の間、もしくは評価2と評価1の間に位置するような生徒も見受けられる。そのような生徒の評価の判断をどのようにするかが難しいと感じた。評価を続けながら、ルーブリックの改訂を継続する必要があると考える。また、評価基準の適切な設定についても、引き続き検討していく必要がある。今回、【関心・意欲・態度】と【実験・観察の技能】のどちらの観点についても、評価が偏ってしまった。来年度は、引き続き2年理系の「物理」と、新しく2年「化学基礎・化学」で評価法の研究開発を行う予定である。今年度の経験を活かし、生徒の実情を日常的に分析し、目指すべきレベルを適切に設定しなければならないと感じた。

また、【表現】という観点での評価については、どう進めたらよいのか暗中模索である。3月の実践で発表の形を試みる予定だが、時間的な制限もあり発表人数は限られる状態でどう評価していくか、難しい課題である。

6 おわりに

本年度は 10 月から研究を始めたが、本校理科の教員が手分けして参考文献を読んだり、パフォーマンス課題やルーブリックに関する基本的な内容の勉強会を行ったりするところからのスタートであった。また、先進校での取組について学ぶため立命館守山中学校・高等学校、東京都立小石川中等教育学校を、理論的な理解を深めるため京都大学、横浜国立大学を訪問した。多くの知見を得て,個々に理解を深めながら協力し合って研究を進めることはできたが、学んだことに関して教員間で共通理解を得るのは容易ではなく、勉強しながら実践するという自転車操業的な状況が続いた点は反省したい。

校内研究委員会や理科会の中での報告会、さらには、職員室の隅や理科準備室で重ねた議論に至るまで、次々とデータや報告を積み上げ、それをまとめた研究であった。そのような中で、総合教育センターの先生方や愛知教育大学の平野先生に、何度も本校を訪問していただいたり、メール等で御指導をいただいたりして、何とか二つのテーマで研究授業を行うことができた。改めて感謝申し上げたい。

この「研究報告書」にまとめられた内容は、まだまだ「研究成果」と呼ぶには十分なものではないが、われわれとしては「授業の見方が変わった」と言っても過言ではない。少なくとも、今までは実験を行う場合にきちんと結果を出すことに主眼を置いていたが、この取組を始めてからは、どうやって生徒に気づかせようか、どうやって自ら考えさせようかということに主眼を置くようになった。また、小中学校の授業で当たり前に行われていたことが、高等学校ではほとんど行われていないことを反省するとともに、理科を通して課題を解決することが好きで、得意とする生徒を育てていきたいと感じた。

多忙化が解消されない中での新たな研究のスタートであったが、生徒の意欲が増すことによって学習の効果が上がることは自分たちの経験として分かっているので、本年度の取組を足がかりに、より高い教育効果を上げられるようにしたい。そして、本校での研究成果が、多くの学校の参考となり、教育活動の改善につながることを楽しみにして、さらに研究を続けて行きたい。

参考文献等

- 文部科学省『高等学校学習指導要領』平成21年3月公示
- ○『立命館守山高等学校SSH研究開発実施報告書』
- 『CSTスタンダード』横浜国立大学 教育人間科学部 附属高度理科教員養成センター編
- 『パフォーマンス評価』松下佳代著 日本標準出版
- 『理科の教育 2011 年 9 月号』東洋館出版社
- 『絶対評価とルーブリックの理論と実際』高浦勝義著 黎明書房

実験 単振り子の周期の測定

年	組	平	氏名
平	术日.	企	仄冶

前回,単振動する単振り子の周期は振り子の長さと重力加速度によって決まることを学習した。今回の実験では,実際に振り子の周期の測定を行い,この事実を検証してみよう。

○実験装置

おもり、糸、スタンド、定規、ストップウォッチ、電卓

○実験方法

- (1) 糸におもりを結びつけ、十分な長さになるように切る。
- (2) スタンドで糸を測定したい長さに固定する。(糸についた印を参考にする)
- (3) 振れ幅を定規で測定し、おもりを少し持ち上げ静かに手を放す。
- (4) ストップウォッチを用いて10往復する時間を計る。 周期はその数値を10で割った値である。(この方法で誤差を小さくできる)
- (5) 同じ条件の測定を3回行い、その平均を取る。

○実験 1

☆振り子の周期が振幅によらないことを確かめよう。

振り子の長さ: 【 】 おもりの質量: 【 】に固定する。

振幅 (m)			
周期 T (s) 1回目			
周期 T (s) 2回目			
周期 T (s) 3回目			
周期 T (s) 平均値			

○実験 2

☆振り子の周期がおもりの質量によらないことを確かめよう。

振り子の長さ: 【 】 振り子の振幅: 【 】に固定する。

おもりの 質量 (g)			
周期 T (s) 1回目			
周期 T (s) 2回目			
周期 T (s) 3回目			
周期 T (s) 平均値			

資料1

○実験3

☆振り子の長さを系統的に変化させたとき、周期がどのように変わるかを調べよう。

振幅:【 】 おもりの質量:【 】に固定する。

振り子の 長さ l (m)			
周期 T (s) 1回目			
周期 T (s) 2回目			
周期 T (s) 3回目			
周期 T (s) 平均値			

○グラフへのまとめ

☆周期の平均値と振り子の長さをグラフにまとめ、理論的に予想される曲線で点を結んでみよう。





l(m)

○反省・感想・疑問

単振り子の周期の測定(解析編)

前回の実験で、単振り子の長さを変化させながら周期を測定し、その関係は単純な1次関数ではないことを確かめた。君たちは、事前に単振動としての単振り子の運動を学習しているので、周期が振り子の長さの平方根に比例することを知っている。しかし、もしもそのことを知らなかったとして、このような実験結果を得たときに、そのままでは関係性を導きだすことは難しい。今回は、実験データを解析することで、周期と振り子の長さとの関係性を確かめてみよう。

○解析方法

グラフを見たときに、関係性が見やすいのは1次関数(直線)である。そこで、前回測定した実験結果を用いて、グラフの軸を工夫することにより、直線になるように解析してみよう。

今回は、以下の3つの中から最適なものを選ぶことにしよう。

① $T^2 - l$ グラフ ② $T - l^2$ グラフ ③ $T^2 - l^2$ グラフ \leftarrow 選んだものに丸をつけよう

○数値の処理

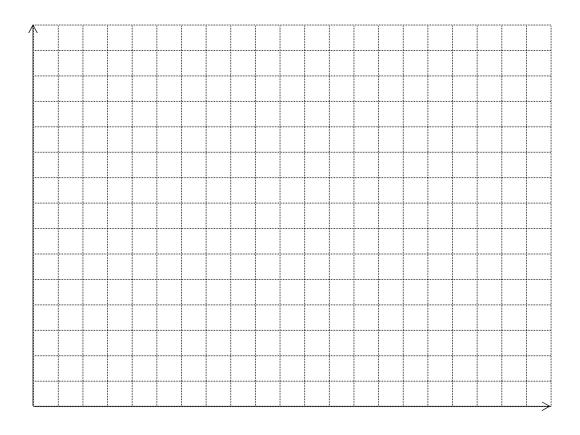
☆前回の実験プリントを見て,以下の表に測定結果を記入しよう。

振り子の 長さ l (m)			
周期 T (s) 平均値			

☆自分が選んだ軸に合わせて、上のデータを処理しよう。**表のラベルを必ず記入すること。**

○グラフ化

☆上の表をグラフに表してみよう。軸のラベルを必ず記入すること。



資料2

	解析	ア共田	∌△ し	$\boldsymbol{\sigma}$	ᅛ	歩
()) 11年7月	ア蝉	論と	U)	Cr.	哑

正しい軸を選択し、	測定結果が妥当な値であれば,	,グラフは直線的になったはず	゛である。このグラフを用いて	(
理論的に予想されん	る結果と実験結果を比較してみる	よう。		

☆単振り子の周昇	閉の公式から,直線	の傾きはどのよ	うに求まるだろう)カゝ?	
r上で導いた傾っ 求めてみよう。		値を求めよう。 ៎	重力加速度は9.	$817 \text{ (m/s}^2)$, $\pi =$	= 3.142 として,有家
・ な左下のグラフの)ある点に注目して,	,直線の傾きを	求めてみよう。		
L 押診的に予相	される傾きと 宝齢	注里から求めた	価キのざれけ	どのような原因で	 ご生じたのだろうか'
(左岬山)(广)、汉		一 木がりれめた	.lgでクケケイのは,	C V)よ <i>が</i> よ/赤囚 V	・生じにのだりが
省, 感想, 疑問					

年 組 番氏名